

私たちの未来を 守るために

投資機会

2026-2030





私たちは厳しいコロナ禍より多くを学びました。ウイルスの蔓延を回避するには、世界的な予防接種の実施が欠かせないと思ひ知ったのです。また、すべての国がそこに暮らす人々を守るすべを確実に持たねばならないこともあらためて教えられました。それこそ私たちが「保健医療の主権」と呼ぶものであり、土台となる医薬品、ワクチンへのアクセス確保はそのスタート地点です。ワクチンの地域生産を増やすことはそのためにも必要です。これこそが2024年6月20日に開催されたワクチンの主権とイノベーションのための世界フォーラムが目指す「より健康で、より手を取り合った世界」へと導くことなのです。

エマニュエル・マクロン

フランス大統領

目次

概要	2
1 世界を守る	8
2 人々を守る	14
3 地域社会を守る	20
4 パートナーシップの強み	24
5 持続可能でイノベティブなメカニズムによる資金調達	28
6 グローバル市場の形成	32
7 民間部門による後押し	36
8 ドナーによる支援	40
ともに行動を — 手を携え未来を守りましょう	44
付録	46
付録1: Gaviワクチンアライアンスのメンバー	46
付録2: Gaviが支援するワクチンと有効な疾患	47
付録3: 各国の需要を満たすための支出	49
付録4: 2026～2030年における各国のGaviワクチン推定需要 (地域別、脆弱性別、IDA資格別)	51
付録5: 2026～2030年における国別Gaviワクチンの推定需要	52
付録6: 2000～2030年のGaviの確定資金	54
付録7: IFFImとワクチン債	58
付録8: Gaviの資金提供者	59
付録9: その他の情報	60
文末脚注	61

概要



ケニア

ケニアのシンドに暮らす生後9ヶ月のレイモンド・ビハは Gaviが支援する定期予防接種プログラムを通じて予防接種を受けた10億人を超える子どもの1人。

Gavi/2023年/Kelvin Juma

パンデミックにより、国境は閉じられ、ビジネスは廃業し、医療は逼迫し、何十億人もの人々が自宅に隔離されました。パンデミックは、過去100年余りで最大の経済的・人的危機の引き金となり、この世代で初めて、世界の貧困は増加しました。しかしそれは同時に、ワクチン接種の力と、Gaviワクチンアライアンスが人命を救い、¹世界の安全を守ることに貢献していることを再認識させるものでもありました。

過去7回のうち6度の世界的な公衆衛生上の緊急事態の時のように、12ヶ月以内で、ワクチンはウイルスに対する最善の防御策となりました。²Gaviは、146カ国に20億回分の新型コロナワクチンを供給しました。こうした成果は、Gaviが20年間にわたり低所得国と取り組んできた活動のもとに築かれたものです。Gaviは、全世界の子どもたちの半数に命を救うワクチンを届けています。

世界のすべての国でワクチンへのアクセスを改善することは、次の緊急事態が発生した時に、より優れた対応を行うための鍵となります。そして、その時は必ずやってきます。気候変動や人口増加、脆弱性や紛争の深刻化により、感染症のアウトブレイクや国際的な感染拡大が増加する中、もはや「パンデミックが起こるかどうか」ではなく、「いつ起こるか」なのです。

2000年から2020年の間に、Gaviは78の低所得国との緊密なパートナーシップのもと、10億人以上の子どもたちへのワクチン接種を貢献し、1,700万人以上の命を守りました。現在、Gaviが支援を行う国で生まれた子どもが、ワクチンで予防可能な感染症によって5歳の誕生日を迎える前に死亡する確率は、2000年の設立当時と比べて70%減少しています。これらの結果は、Gaviへの投資は、グローバルヘルスにおいて最も費用対効果の高い施策の一つであることを表しています。予防接種に1米ドル投資するごとに、54米ドルの経済効果が生まれます。³

こうした成果は、世界のワクチン市場を形成することにより新技術を推進し、ワクチン価格を手頃なものにし、革新的な資金調達によりインパクトを拡大するという、Gaviのユニークなモデルによってもたらされています。

Gaviの中心にあるものは、チャリティーではなく、エンパワーメントです。対前年比で、各国は予防接種の明確な投資利益を認識し、自国のワクチン費用への拠出を増やしています。

2026年から2030年にかけてのGaviの次の戦略サイクルでは、こうしたインパクトを大幅に加速させるまたとない機会であり、また、それを国連の持続可能な開発目標 (SDGs) の達成期限までに実施する最後の機会となります。ロタウイルスや、麻疹、HPVといった既存のワクチンへのアクセスを改善するとともに、マラリアや、デング熱、結核といった致命的な疾患に対する新しいワクチンを導入することで、Gaviは、これまでの半分の時間でさらなる10億人の子どもへのワクチン接種を実施することができます。

世界を守る

感染症は国境の中にとどまりません。2026年から2030年にかけて、アウトブレイクが発生しやすい感染症を発生源から予防するワクチンプログラムの拡大、緊急備蓄に対し、最大規模の投資を行い、Gaviは世界の健康安全保障のための役割を強化します。Gaviのポートフォリオの半分以上のワクチンは、気候変動と、薬剤耐性菌による「サイレント」パンデミックという2つの脅威に各国が適応できるよう支援するものです。最大25億米ドルの資金を迅速に供給できるサージ・ファイナンスの仕組みを持つ革新的なファイナンス・メカニズムにより支えられる、ワクチン・パートナー連合は、次に危機が発生した際、最貧国によるワクチンへのアクセス確保を支援します。また、Gaviは、アフリカ連合とのパートナーシップにより、10億米ドル規模のアフリカワクチン製造アクセラレーター (AVMA) を通じ、アフリカで製造されるワクチンが歴史的に不足した状態への対策に取り組むなど、地域パートナーとの協力によりワクチンの現地製造の強靭性を構築します。

2026年から2030年にかけて、Gaviは次の方法で未来を守る。

ワクチン接種をさらに

5 億人

以上の子どもに実施

800 万~
900 万人の

命を救う

協調融資および自己
資金調達によるワク
チンプログラムを通
じた40億米ドル以上
の資金拠出促進



40 億米ドル超

世界の健康安全保障
を強化し、将来のパン
デミックの脅威から人
々を守るため、150以
上の感染症アウトブレ
イクに対応



150 件以上

Gaviのワクチンポー
トフォリオの少なく
とも50%の価格引き
下げによる、最大8
億米ドルの効率化



50%

Gavi支援国に少
なくとも1,000億
米ドル経済的利
益を生み出す



1,000
億米ドル以上

家族と医療サービ
ス間の14億を超える
コンタクトを促進し、
より統合されプライマ
リ・ヘルスケアとユニ
バーサル・ヘルス・カ
バレッジを実現



14 億超

HPVワクチンを通じ
て150万人を超える
女兒の命を救い、子
宮頸がんを予防



150 万人超

5,000万人を超
える子どもにマラ
リアワクチンの接種
を実施



5,000
万人超

人々を守る

2026年から、Gaviはより多くの子どもに、より多くの病気に対抗して、これまで以上に迅速にワクチンを届けられるよう支援します。5億人以上の子どもたちを守り、800万人以上の命が救われることになります。グローバルファンドとの緊密な協力のもと、5歳未満の子どもの世界最大の死因の一つであるマラリアに対抗するために、画期的なワクチンによって5,000万人を超える子どもたちを守ります。また、Gaviは1億2,000万人を超える女兒にヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチンの接種を実施し、150万人の命を救うことで、子宮頸がん撲滅への取り組みを強化します。

地域社会の保護

人口の増加や、紛争と脆弱性の増大、移住、気候変動により、十分な予防接種を受けていないコミュニティに予防接種を普及させることが難しくなっています。低所得国では、大きな進展はあったものの、いまだに年間1,000万人を超える子どもたちがワクチンを一度も接種されていない状況にあります。次の戦略期間において、Gaviは、いわゆる「ゼロドーズ児」⁴を減らすための活動を加速させ、予防接種アジェンダ2030の50%の削減目標に貢献します。そのために、Gaviはジェンダーや需要にかかるその他の障壁に焦点を当て、地域社会や市民社会組織とより深く関わっていきます。Gaviは、アライアンスとして、ルサカ・アジェンダの精神のもと、プライマリ・ヘルスケアの強化とユニバーサル・ヘルス・カバレッジへの貢献のために、グローバルヘルス全

体のアクターを集結し、各国の優先事項を中心に、保健システムを強化するためのより良いパートナーシップを構築するのに理想的な立ち位置にあります。

持続可能性が原動力

Gaviの活動の原動力となっているのは、予防接種プログラムに対する各国のオーナーシップ（主体性）です。Gaviは、グローバルヘルスにおける国家投資と国内資金動員を促す、最も成功したモデルのひとつです。今後5年間で、支援対象国は定期接種ワクチンのコストの40%以上を自国の資金でまかなうようになります。15年前、この数字はわずか10%でした。2030年までに、Gaviが元々支援する78の低所得国の4つのうちの一つの国以上が、自国のワクチンプログラムを自己出資するようになります。

ユニークで革新的なモデルを採用

これら全てを可能にするのは、革新的な資金調達とメーカーや民間セクターとのパートナーシップを融合させ、コストを削減し、インパクトを高める強力な支援パッケージです。民間セクターのイノベーションは大規模に調達・供給されます。多国間開発銀行、開発金融機関とのパートナーシップは、資金を有効活用して保健システム内の予防接種能力を強化します。Gaviは、市場の力を活用し、ワクチンメーカーのイノベーションを推進すると同時に、2026年から2030年の間にワクチンポートフォリオ50%の価格を引き下げ、ワクチン市場の安定と健全性を維持します。



ワクチンは公衆衛生における最良の投資であり、Gaviは世界中の子どもたちに予防接種を行うという比類のない取り組みを継続・強化するための資金を必要としています。これは、健康安全保障や世界的な正義に関わる基本的な問題です。

ジョゼ・マヌエル・バロージ

Gavi 理事会議長

この野心的なプログラム実施のため、Gaviは小規模かつ効率的な事務局を維持することで、ドナーや支援対象国のコストを最小限に抑え、1ドルのうち97セントがワクチンプログラムの支援に直接使われるようにしています。

予防接種は、他の介入策と並行して実施され、プライマリ・ヘルスシステムに組み込まれる場合に、最も大きな効果を発揮します。そのためGaviは、自らの活動が、世界保健機関 (WHO) や、世界エイズ・結核・マラリア対策基金、世界銀行が主導するパンデミック基金、世界銀行の国際開発協会 (IDA) など、パートナーの計画を補完するものとなるよう、他の保健機関と緊密に協力してきました。

私たちの未来を守るために

Gaviがこの野心的な計画を達成するためには、2026年から2030年の間に少なくとも**90億米ドルの追加資金**が必要となります。これは、予防接種のための国際金融ファシリティ (IFFIm) を通じた、**17億米ドルの柔軟かつ長期的資金提供コミットメント**を含みます。

今こそ、このユニークで革新的なアライアンスの力を活用し、人命を救い、世界中でグローバルヘルスの成果を強化・加速させ、私たちの未来を守るために共に行動しなければなりません。



時々、これまでに行った最高の投資は何かと聞かれますが、答えは簡単です。それは、Gaviワクチンアライアンスです。

ビル・ゲイツ

ビル&メリンダ・ゲイツ財団共同議長

ウガンダ

Gaviは家族と保健医療従事者との関わり14億件以上を支援。ウガンダのカンパラで働く保健医療従事者リリアン・ナミレンベもその1人

Gavi/2023年/Kelvin Juma



Gaviはインパクトを拡大しています



1 世界を守る



セネガル

Gaviが支援するワクチンを専用保冷庫から取り出すセネガル・ダカールの保健医療従事者。Gaviは2026～2030年に太陽電池式の冷蔵庫と冷凍庫2万個以上の設置を目指している。

Gavi/2018年/Simon Davis

新型インフルエンザ(H1N1)やエボラ出血熱、そしてCOVID-19にいたるまで、命を脅かすさまざまな感染症のアウトブレイクとパンデミックが明確に示したのは、「感染症に国境は存在しない」ということです。Gaviが支援するワクチンは、貧しい国々における感染症の流行を抑えることで世界をより安全にしてきました。ポートフォリオの半数以上のワクチンが、各国が気候変動の影響に対応するのに助けるだけでなく、抗生物質の需要を減らすことで薬剤耐性(AMR)のサイレントパンデミックに対抗する助けとなっています。

世界的な強靱性を構築する

COVID-19のパンデミックにより少なくとも700万人が命を落とし⁵、世界経済は14兆米ドル以上の損失を被りました。⁶この犠牲の大きさを、世界は簡単に忘れることはできないでしょう。GaviはCOVAXの経験など最新の知見と教訓を踏まえ、各国が健康にかかわる脅威を予防し、備え、対応するのを支援します。

Gaviの設立前、子どもに対する予防接種の実施レベルは10年にわたって停滞し、特に低所得国は感染症の流行に苦しんでいました。年間1000万人の子どもたちが5歳未満で命を落とし⁷、その多くがワクチン接種で防ぐことができた病気が原因でした。ワクチンプログラムは資金が乏しく優先順位が低いことが多かった上、実施される際もグローバルなパートナーと地域に根ざすパートナーとの連携はありませんでした。また、新たなワクチンは高額で、低所得国には手が届くものではなかったのです。

Gaviは20年以上にわたり、グローバルな健康安全保障の基礎として、定期予防接種プログラムおよび感染症流行との闘いを支援してきました。定期予防接種プログラムは、柔軟で持続可能な保健システムを構築するだけでなく、危険な感染症の流行時にワクチンを供給するために不可欠なインフラを築きます。Gaviの活動は単なる自治体や地域的な取り組みではなく、グローバルな健康安全保障に直接貢献する世界的な公益活動なのです。

2026~2030年の期間中、Gaviはワクチンプログラムと流行しやすい感染症のワクチン備蓄に対し、これまでで最大規模の投資を行います。対象としては、エボラ出血熱、コレラ、髄膜炎や黄熱病ワクチンなどの備蓄のほか、麻疹・風疹パートナーシップ(年間1000万米ドル)への支援、150件以上発生する感染症の流行への対応に

必須の能力の提供などが含まれます。COVID-19のパンデミックで多くの定期予防接種が中止や延期となり、結果として世界的な麻疹の流行につながりました。これを受けてGaviはアライアンスのパートナーを含むグローバルおよび地域的な保健機関との連携を強化し、世界中の予防ニーズへのすばやい対応に努めています。

気候変動と薬剤耐性(AMR)の脅威への取り組み

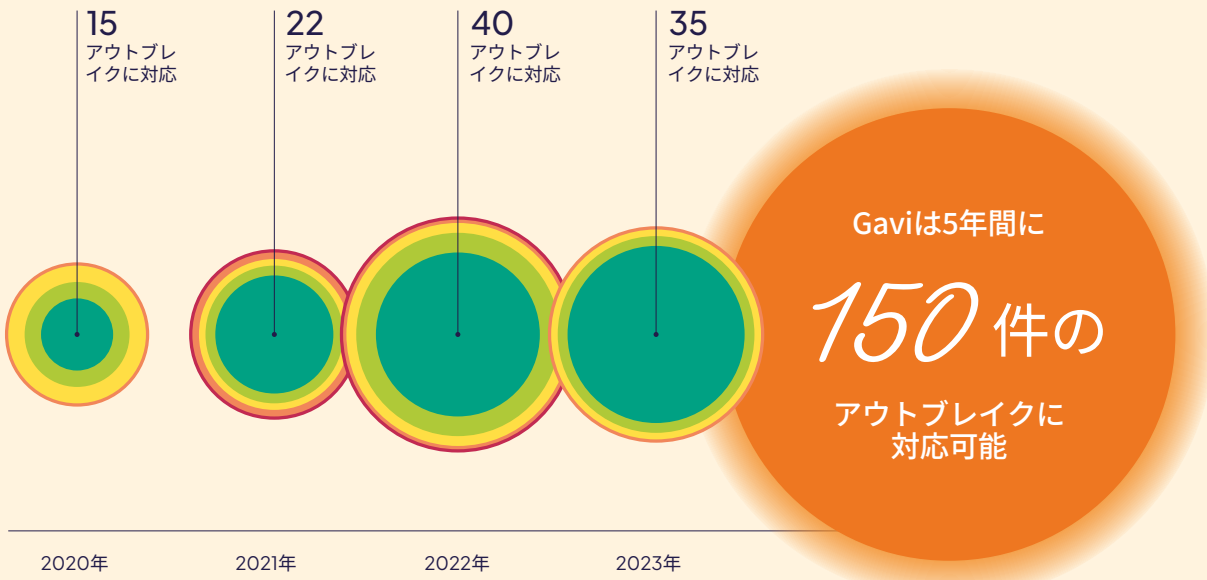
世界的な気温の変化は、Gaviのプログラム実施国に特に大きな打撃を与えています。洪水や干ばつなどの気候ショックは保健システムを脅かし、ワクチンの供給をより困難にしている上、都市化でさらに複合的なインパクトとなります。水が媒介するコレラなどの感染症はよりありふれた病気になりつつあり、マラリアや黄熱病のような動物や昆虫が媒介する感染症も同様です。

Gaviは次の戦略期間で、気候変動の影響に対処する国々への支援をさらに深めます。気候に影響されやすい感染症により強固に対応するため、Gaviはマラリアワクチンプログラムの拡大、 Dengue熱ワクチンの導入、コレラや黄熱病などの感染症の予防キャンペーンとワクチン備蓄を広く進めていきます。保健システムを強化するためにGaviが行う投資は、気候ショックに対する各国のワクチンプログラムの対応力を強化するのに役立てられます。またコールドチェーンの機器や保健施設を太陽光エネルギー化し、廃棄物管理の向上によってサプライチェーンを脱炭素化することで、ワクチンプログラムを二酸化炭素の排出削減につなげます。2026年から2030年の間にGaviは2万個を超える太陽電池付き冷蔵庫と冷凍庫の設置を目指しています。さらにGaviはUNICEFと連携し、グリーン調達基準に基づく二酸化炭素の排出削減に取り組みます。そしてパリ協定に沿って事務局の二酸化炭素の排出削減に努めるとともに、アライアンス全体のカーボンフットプリントを最小限に抑えるべくパートナーと協力します。

図2

Gaviのワクチン備蓄によるアウトブレイク対応と今後の予測

承認されたアウトブレイク対応数



COVID-19のパンデミックにより
定期予防接種に遅れが生じ、
世界的にアウトブレイク発生数が増加

2026~2030年

① アウトブレイク対応 ● コレラ ● 麻疹・風疹 ● 黄熱病 ● 髄膜炎 ● エボラ出血熱

ルワンダはアフリカで最初にヒトパピローマウイルス (HPV) の予防接種プログラムを導入した国のひとつです。ワクチン接種と検査、治療へのアクセスを向上させることで、私たちは子宮頸がんを撲滅することができるのです。

ポール・カガメ
ルワンダ大統領

薬剤耐性 (AMR) の問題は公衆衛生と世界の発展における最大の脅威のひとつであり、年間推定500万人の死亡 (うち100万人が5歳未満の子ども) と1兆米ドルを超えるGDP損失の一因となっています。抗生物質の使い過ぎが薬剤耐性菌による感染症の急増につながったのです。サイレントパンデミックと闘う世界にとって、ワクチンは強力な武器です。細菌性の感染を防ぐことで直接的に抗生物質の使用を減らし、同時にウイルス性の感染を防ぐことで不要な抗生物質の処方を削減できます。定期予防接種は感染症に最も弱い存在である子どもたちを守ります。感染症の発生が減少し、患者が減るということは、世界が抗生物質の使用を削減し、ほかの治療法を見つけるまでの時間を稼げると

図3

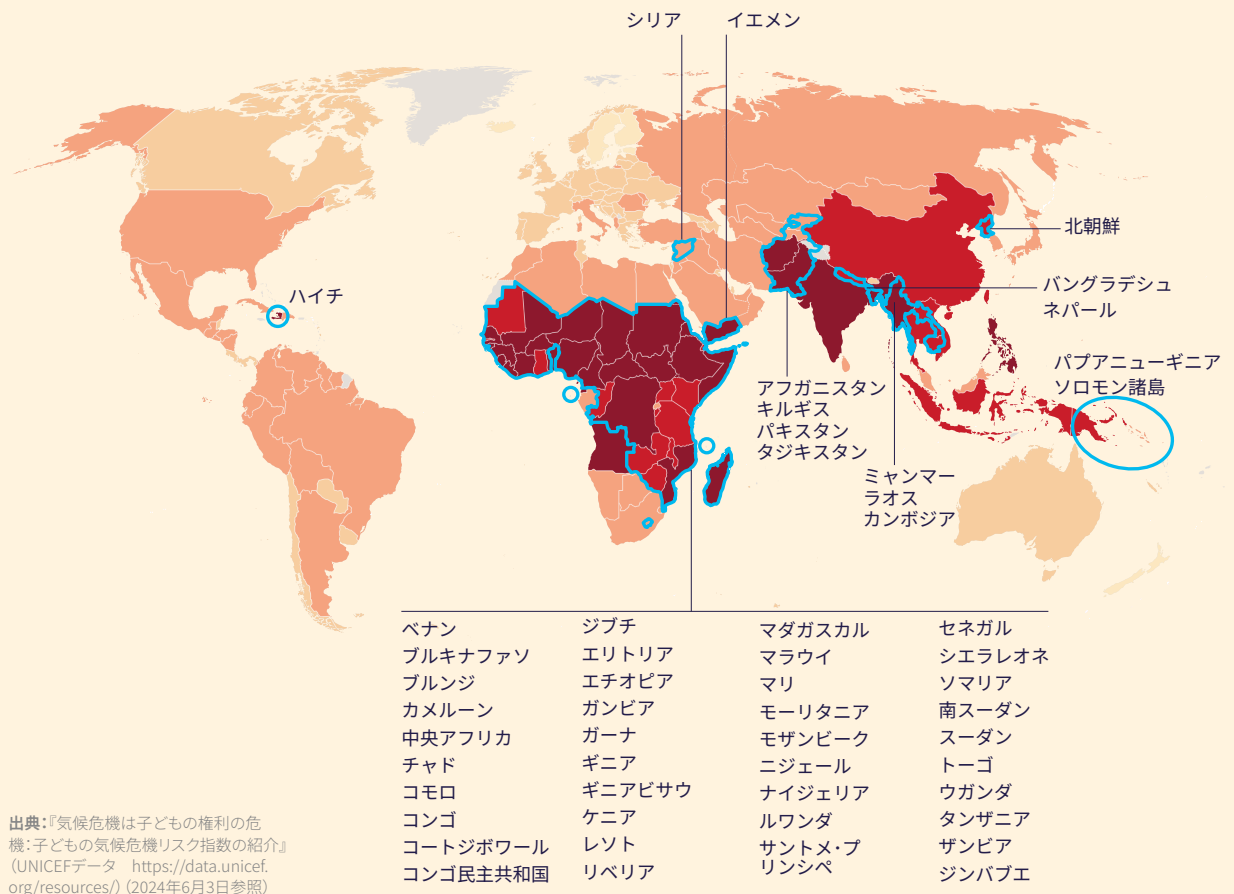
厳しい気候危機に直面するGaviプログラム実施国

子どもの気候危機リスク指数 (CCRI)

● データなし ● 0~2 ● >2~4 ● >4~6 ● >6~7 ● >7

Gavi支援国

○ Gaviの新ワクチン支援への申請対象54ヶ国



ということです。次の戦略期間におけるGaviの取り組みは、AMRとの闘いの潮目を変える一助となるのです。たとえばGaviの支援国で実施しているヘモフィルス・インフルエンザ菌b型(Hib)や肺炎球菌、ロタウイルス、腸チフスの予防接種は抗生物質の使用を年間6000万回分以上減らすことができます。これは13%以上の削減⁹です。

グローバルヘルス・セキュリティ・アーキテクチャーに沿った活動

世界が構築する将来的なパンデミック対応に必要なシステムと最大限に統一が取れるよう、Gaviは2026~2030年の戦略で、将来の世界の健康安全保障に関す

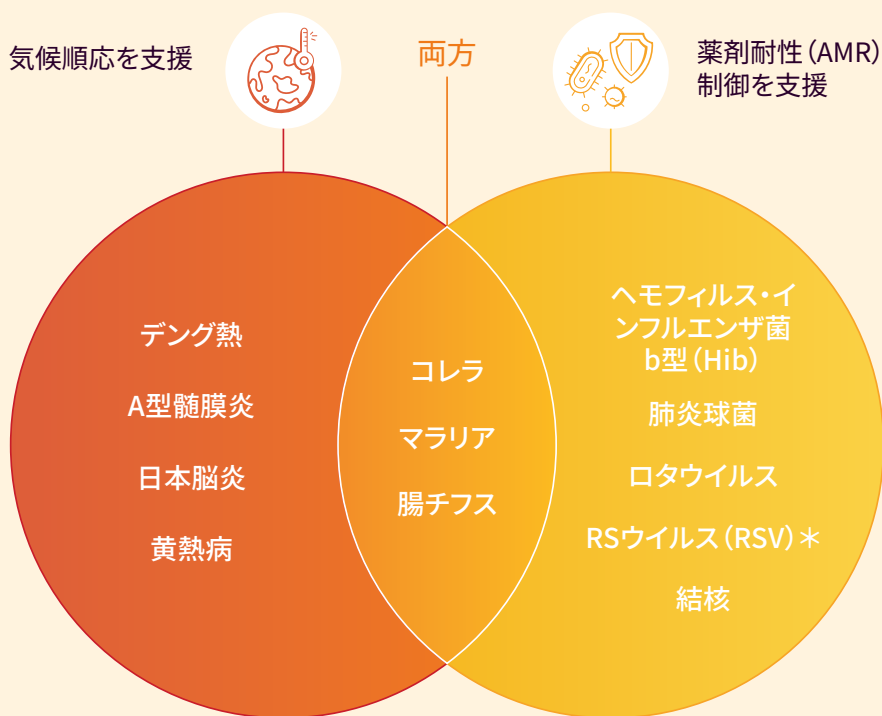
る議論の成果をさらに強化するよう努めていきます。その一環として、25億米ドルのサージキャパシティを有するパンデミックのためのデイゼロ・ファイナンス・ファシリティ(DZF)⁹などの資金調達ツールにより、次のパンデミック時に低所得国へのワクチンへの公平なアクセスを支援するための緊急資金の調達を確保します。同ファシリティはパンデミック条約の最終合意と国際保健規則に基づいて導入されます。ワクチンパートナー連合は、WHOが主導する暫定的な感染症危機対応医薬品等(MCM)ネットワークに積極的に貢献します。またGaviは、引き続き各国と協力し強靱なシステムを自国で構築し、パンデミック基金と連携しワクチンで予防できる感染症を検知・診断する能力向上に取り組みます。



The Global Fund/2024/Vincent Becker

図4

ワクチンはグローバルな変化に対する各国の緩和・順応努力を支援



備考: *呼吸器合胞体ウイルス



Gaviはパートナーとともに感染症との闘いを加速させるだけでなく、ワクチンの現地製造を推進することによって世界の健康安全保障のシナリオを書き換えていきます。EUはGaviの取り組みに対する政治的・財政的支援を主導していることを誇りに思うとともに、これからも協力していきます。

ウルズラ・フォン・デア・ライエン
欧州委員会委員長

アフリカワクチン製造アクセラレーター (AVMA)

COVID-19が示したとおり、ワクチンへの公平なアクセスはワクチンの主権に不可欠な要素です。そのためには地域におけるワクチン生産を多角化することがカギとなります。アフリカ大陸は特に重要な地域です。アフリカが世界のワクチン生産に占める割合は0.1%以下にとどまっており、それは、世界人口の20%を占めるこの地域にとって、パンデミック時に必要なワクチン供給力の最低必要水準にすらほど遠いレベルです。そこでアフリカ連合 (AU) は、2040年までにアフリカ大陸で必要なワクチンの60%を現地生産でまかなうという野心的な目標を掲げました。その目標に応える先駆的なイニシアチブがGaviのアフリカワクチン製造アクセラレーター (AVMA) であり、地域パートナーとの協力を通じて変革的なインパクトを生み出す新たなアプローチを持つものです。過去18ヶ月、GaviはAUとともに広く包摂的なプロセスを主導してきました。このプロセスにはアフリカ疾病管理予防センター (アフリカCDC) をはじめ、ワクチン製造業者、AU加盟国、ドナー、投資家、国連パートナー、市民社会組織 (CSO) など、さまざまな組織や団体が参加し、アフリカ大陸における持続可能なワクチン製造業の開発に向けた長期的な財政的インセンティブの設計に取り組みました。

AVMAはアフリカの企業やその出資者や融資パートナー、G7やその他の主要ドナーによる投資のリスクを慎重に決められた財政的インセンティブを提供することで回避することを目的としています。そのインセンティブはアフリカの製造業者が生産したワクチンがWHOの承認を受けた際の支払金 (マイルストーンペイメント) とUNICEFの入札を落札した際の支払金 (アクセラレーターペイメント) です。

AVMAは2035年までに、3つの異なるワクチンの技術基盤を使用する最低4社のワクチン製造業者を通して、アフリカで生産されたワクチン少なくとも接種8億回分の調達を支援することを目指しています。これにより年間接種7億回分のワクチンを将来のパンデミックに転用する能力を有することになり、アフリカの人口の約50%をカバーすることができます。

これこそGaviが得意とする資金調達とイノベーション、そして市場形成の融合です。長期にわたって市場に強いシグナルを送ることで、AVMAは「アフリカで作ったワクチンをアフリカに届ける」という目標を実現する力を結集します。



ダカール・パスツール研究所

2 人々を守る



トーゴ

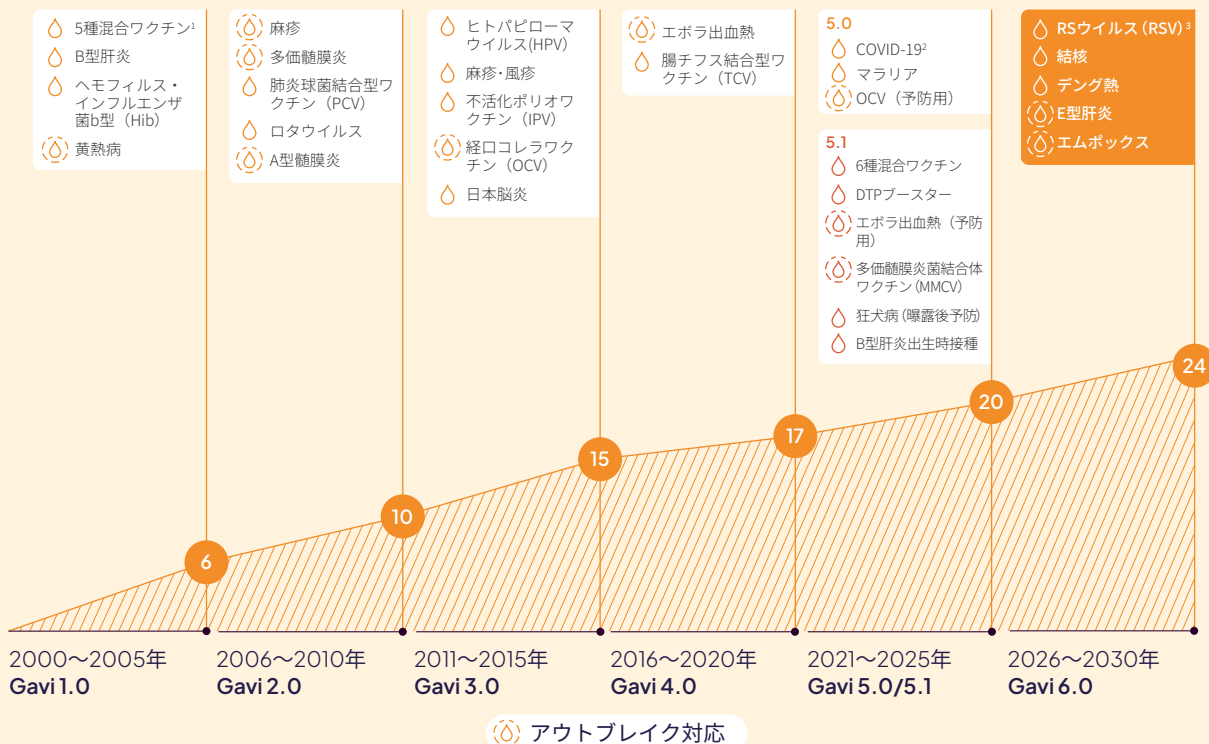
2023年11月、トーゴはGaviの支援でヒトパピローマウイルス (HPV) ワクチンを導入。Gaviは2026年から2030年の間に、1億2000万人の少女にワクチンを接種し、150万人以上の命を救う計画である。

UNICEF/トーゴ/2023年/Combetey

世界はワクチン革命のまただ中にあります。ワクチンアライアンスは命を救うワクチンについて、かつてないほど幅広いポートフォリオを発表しました。これは最も必要としている人々が確実にワクチンの恩恵を受けられるようにするためであり、これまでの半分の時間でさらなる10億人の子どもたちにワクチン接種を実施するためです。

図5

Gaviはプログラム実施国に対し最も包括的なワクチンポートフォリオを提供



備考:

- ジフテリア、破傷風、百日咳 (DTP)、B型肝炎、ヘモフィラス・インフルエンザ菌b型 (Hib)
- ワクチン投資戦略 (VIS) は、2026年以降のGaviのポートフォリオにCOVID-19を含めることを推奨していない。
- RSウイルス (RSV) ワクチンはワクチン投資戦略2018において基本承認された。

命を救うワクチンをより多くの子どもたちへ

Gaviの次の戦略期間はこれまでで最も野心的なものとなります。世界の最貧国に24の感染症に対するワクチンを導入するだけでなく、この期間の投資により、これまで以上にワクチンで守られた世代を生み出すのです。予防接種を受ける子どもは5億人以上に達し、Gaviが支援する予防接種の実施回数は、現在の2021~2025年戦略期間の実績を最大33%上回るようになります。救われる命は800万人を超えます。

さらにGaviは各国と協力し、これまで20年にわたってともに築いてきた基盤を強化していきます。Gaviが支援する54ヶ国では、毎年合わせて5500万人以上¹⁰の子どもが誕生しています。各支援国がそのペースに遅れることなく、肺炎球菌やロタウイルス、5種混合ワクチン、麻疹などに対するワクチン接種プログラムの実施を加速できるよう支援します。これで今後5年間に誕生する子どもたちが、世界で最も多くの子どもの命を奪っている感染症である肺炎や死亡率の高い髄膜炎な

ど、ワクチンで予防できるさまざまな感染症から守られることになるのです。

世界の女性に4番目に多いがんで、死亡原因としても4番目に多いのが子宮頸がんです。子宮頸がんは毎年およそ35万人もの命を奪い、そのうち9割以上が低所得国に暮らす女性です。しかしこのがんはHPVワクチンでほぼ予防が可能です。1000人の少女にワクチン接種を行うごとに18人近くの死亡を防ぐことができ、Gaviのワクチンポートフォリオの中でもきわめてインパクトの大きなワクチンです。Gaviは思春期の少女に対するケアの包括的パッケージに、栄養や性と生殖に関する健康などに並んでHPVワクチン接種を含めて届けるべく、パートナーとともに尽力しています。Gaviの市場形成の取り組みと製造業者との協力関係によってHPVワ

クチンの供給量を増やすことで、2026～2030年に1億2000万人の少女がワクチンを接種し、150万人の命が救われることとなります。

強力な新しいワクチンの供給を加速する

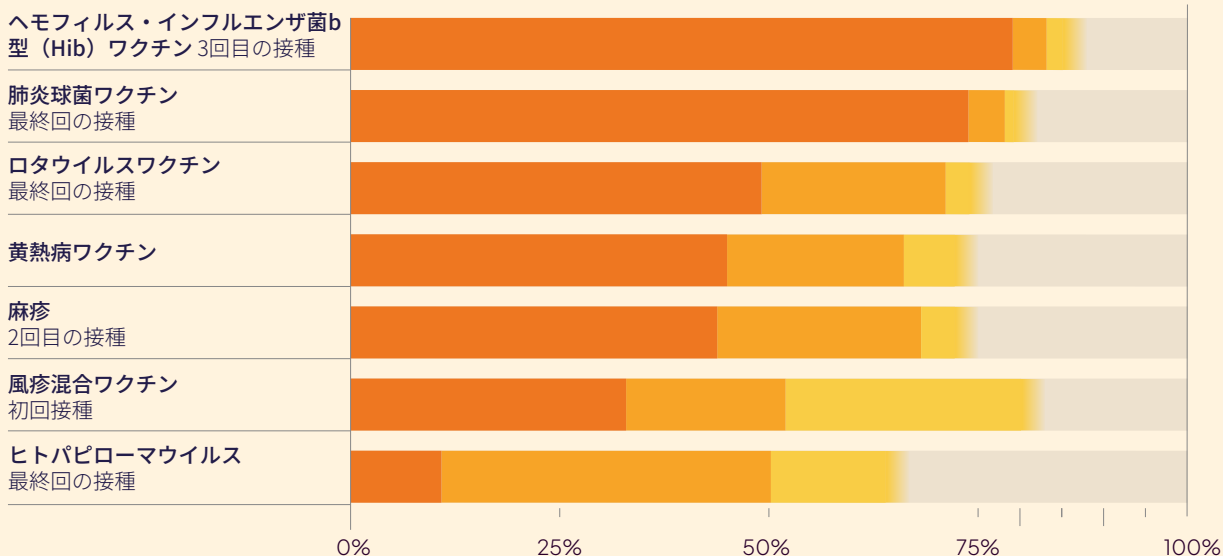
Gaviは引き続きワクチンポートフォリオを拡大し、 Dengue熱や結核を予防する画期的な新しいワクチンなどを加えることで、これまで以上に子どもたちが守られるよう努めます。世界は長くマラリアワクチンを待ち望んでいますが、その間にも、この感染症は世界で何百万人も命を奪ってきました。中でもアフリカでは年間50万人もの子どもたちが命を落としています。¹¹30年にわたる研究が実を結び、2つの新たなワクチンが接種可能となりました。マラリアとの闘いを加速させる大きなチャンスが訪れたのです。Gaviの革新的な市場形成の取組

図6

ワクチンによる感染症予防の向上

ワクチン接種率 (%)

● 2019年まで | 予測： ● 2025年まで ● 2030年まで



3種混合ワクチン (DPT3) 接種率

現在の3種混合ワクチン接種率

75%



備考：ゼロドーズ児とはワクチンの定期予防接種をまったく受けていない子どもたちを指す。運営上の観点から、Gaviはゼロドーズ児をジフテリア・破傷風・百日咳混合ワクチンの初回接種 (DTP1) を受けていない子どもと定義。

予防接種が不十分な子どもたちとは、ジフテリア・破傷風・百日咳混合ワクチンの3回目接種 (DTP3) を受けていない子どもと定義。

接種率の数字は2026～2030年にGaviが支援する54ヶ国における定期予防接種のもの。

みは、新たに開発されたワクチンを遅れることなくGaviのプログラム実施国にもたらす力となっています。

マラリア撲滅キャンペーンの新たな武器として、長くマラリアと闘ってきた多くの国からワクチンを求める声が上がっています。2026～2030年の戦略期間で、Gaviは少なくとも5000万人の子どもたちに対し、推奨される4回のマラリアワクチンの接種実施を支援します。子どもとその家族が、新ワクチンから最大限の恩恵を受けるためには、保健関係者の戦略的な協力が欠かせません。ルサカ・アジェンダに示されているとおり、Gaviとグローバルファンドは次の5年間にわたり、手を取り合って各国を支援し、マラリアプログラムの強化に取り組んでいきます。その一環として国レベルのさまざまなマラリア感染制御プログラムや予防接種プログラムを統合して強化し、保健システムの強化にも共同して取り組

みます。マラリアワクチンがあれば、5歳未満の子どもの死亡率を13%削減できます。すべてのマラリア予防策（ワクチン、蚊帳、屋内の殺虫など）を完全に導入できた場合、最大92%もマラリアの脅威を削減できるとする分析¹²もあります。



初のマラリアワクチン導入からワクチン開発・製造能力の構築まで、ガーナはアフリカにおける予防接種の新たな時代の先頭に立ちたいと思います。

ナナ・アクフォ＝アド

ガーナ大統領



図7

ワクチン種別 予測コストと将来的に回避できる推定死亡者数

ワクチン	2021～2025年			2026～2030年		
	支出 (100万米ドル)	接種者数 (100万人)	回避できる 死亡者数	支出 (100万米ドル)	接種者数 ⁴ (100万人)	回避できる 死亡者数 ⁴
マラリア	334	2	最大7,000	1,127	50	最大17万
肺炎球菌	1,437	270	最大70万	1,013	220	最大70万
不活化ポリオワクチン	888	580		671	490	
麻疹と風疹	442	510	最大130万	621	560	最大180万
コレラ	239	48	最大4,000	595	170	最大2万
備蓄およびアウトブレイク対応用 ワクチン ²	402			454		
腸チフス ¹	221	110	最大10万	403	370	最大60万
ロタウイルス	548	270	最大20万	393	200	最大20万
6種混合ワクチン	26	<1	最大1万	347	25	最大40万
5種混合ワクチン	516	210	最大270万	343	200	最大210万
黄熱病	451	270	最大65万	317	200	最大60万
ヒトパピローマウイルス ¹	559	90	最大120万	297	120	最大150万
多価髄膜炎菌結合体ワクチン	112	30	最大1万	262	90	最大4万
A型髄膜炎	76	72	最大6万	128	110	最大10万
その他のVIS 2018 (RSV、狂犬病)	2			53		
VIS 2024 ⁷	-			32		
日本脳炎	2	4	最大2,000	31	60	最大1万
出生時B型肝炎ワクチン接種	2	2	最大3,000	18	62	最大8万
DTPブースター ⁵	1	4	最大1,000	6	37	最大7,000
その他 ^{3、6}	(449)			(469)		
合計	5,811		当初の予測 7～800万	6,642		8～900万

備考:

すべての数値は現時点での予測に基づく。

1. HPVとTCVへの支出金額(米ドル)は2024年6月に理事会に提出されたインド戦略の予測のもとにまとめられているものを含む。
2. アウトブレイク対応用の麻疹/麻疹・風疹ワクチンおよびコレラ、エボラ出血熱、髄膜炎菌性髄膜炎、黄熱病ワクチンの備蓄を含む。
3. ワクチン接種を安全に実施するための器具や診断道具を含む。
4. インパクト予測の数値は人口規模、疾病負荷および発生予測、ワクチン接種率とその拡大に関する最新の予測によるもので、変更される可能性がある。計算の詳細は技術付録に記載。
5. DTPブースター接種済みの数には3回すべて接種している者も含まれる(単独で生後2年、5～6年、10～11年)。
6. COVID-19ワクチンプログラムは2025年末に終了する見通しで、関連する支出は上記の表には含まれていない。
7. ワクチン投資戦略2024の支出予測にはデング熱、エムボックスおよびE型肝炎ワクチンが含まれる。その他のワクチン投資戦略2024のワクチンには、結核(TB)と新生児B群溶連菌感染症(GBS)ワクチンが含まれる。

“

2000年以降、10億人の子どもたちが予防接種を受け、少なくとも1700万人の命が救われました。協力して取り組みましょう。産業界のパートナーとプログラム実施国、そして開発パートナーが手を取り合って、予防接種とワクチン製造に掲げた意欲的な目標を達成するのです。

オラフ・ショルツ
ドイツ首相



3 地域社会を守る



ザンビア

ザンビアは2018年、自国での大流行を抑えるため、接種170万回分を超える経口コレラワクチンの提供を受けました。2026～2030年は、少なくともこのような流行150件に対応できる備えがあります。

Gavi/2018年/Duncan Graham-Rowe

各国を中心に据えたワクチンアライアンスは、多面的なパートナーシップとして、プライマリ・ヘルスケア・システムの一環としての包括的な予防接種システムを強化・維持することに尽力しています。公平性は次の戦略期間においても核心部分であり、まだ取り残されている脆弱なコミュニティにワクチンを届け、ジェンダーに関連した障壁を取り除くよう引き続きコミットしていきます。また、不安定さを増し紛争が絶えない世界で、各国が急速に変化する環境に対する強靭性を身に着ける助けとなります。

予防接種をプライマリ・ヘルスケアに統合する

子どもへのワクチン接種は、その家族をヘルスケアシステムへとつなぎます。予防接種はプライマリ・ヘルスケアに不可欠な構成要素であり、他の重要なサービスのプラットフォームとしても機能することで、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの礎となります。予防接種で感染症を予防すれば、国の医療費が抑えられ、保健システムへの負担が軽減されるなど、効率化の実現が大きく促され、長期のインパクトとコスト削減につながるのです。

次の戦略期間でGaviは予防接種のプライマリ・ヘルスケアへの組み込みとヘルスケアサービスのより幅広いパッケージ提供に注力します。Gaviが支援するワクチンは、人々の保健システムへの関わりを14億回以上も増やし、栄養支援や安全な水とトイレなど重要なサービスと予防接種と融合するユニークな機会を提供します。

これまでGaviが支援するワクチンのほとんどが1歳未満の子どもを対象としていましたが、さらに**10億人の子どもに予防接種をするためには、さまざまな年齢層を対象にする必要があります**。2026~2030年のポートフォリオには、妊娠中の接種で新生児が危険な病気に感染するのを防ぐ新たなワクチンや、生後2年目に接種するマラリアワクチンをはじめ、HPVワクチン、デング熱ワクチン、思春期の子どもを対象とする結核予防ワクチンも含まれています。次の5年間でGaviはパートナーとともにより包括的なアプローチで各国が自国の予防接種プログラムに導入する最適なワクチンの選択を支援します。さまざまな年齢層の人々に届けるため、Gaviは各国に加え、グローバルファンドや女性・子ども・青少年のためのグローバル・ファイナンス・ファシリティ(GFF)などのパートナーと連携し、これらの重要な新ワクチンの導入計画の立案と配送を支援します。



Gaviによる定期予防接種は、日本が目指すUHCの基盤を強化してきました。

日本は、世界のあらゆる国や地域で、ワクチンへの公平なアクセスを確保し、「誰の健康も取り残さない」ため、Gaviとともに、またその一員として取り組んでいきます。

岸田文雄

日本国内閣総理大臣

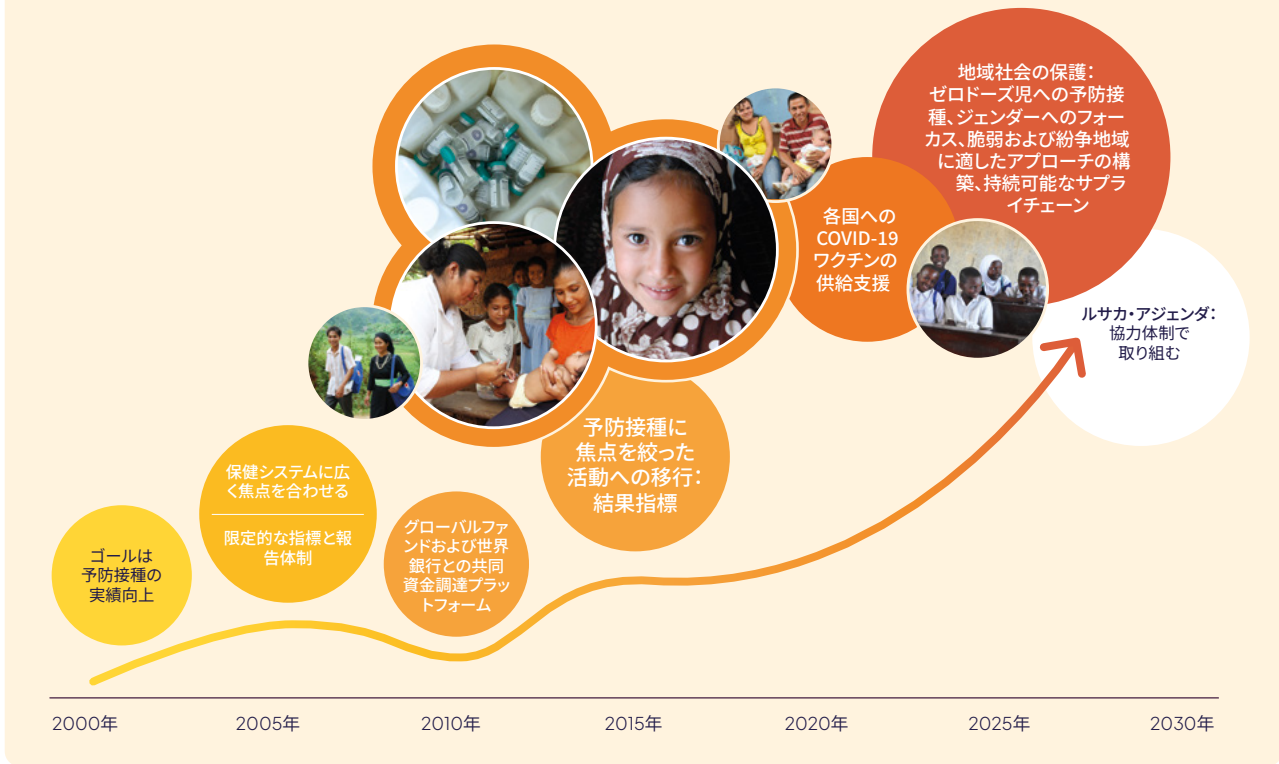
誰ひとり取り残さない

多くが都市部のスラムや辺境地、人道地区などの脆弱な地域に暮らす**ゼロドーズ児**にワクチンを届けるべく、Gaviは保健システムを強化するための投資にいっそう注力します。次の戦略期間中、Gaviはジェンダーをはじめとする需要に関連した障壁にいっそう目を向け、コミュニティや市民社会組織(CSO)とより深く連携し、これまで行き届かなかった人々に保健システムがたどりつくための新たなデータを活用します。ワクチンアライアンスは投資を通じて保健システムのイノベーションを促進し、Gavi5.0におけるデータシステムとサプライチェーン・システムのデジタル化に向けた取り組みを成功へと導きます。Gaviのプログラム実施国と協力してゼロドーズ児を減らすための活動を加速し、予防接種アジェンダ2030が掲げる「10年以内に50%削減」という目標に沿って、完全な予防接種実施への第一歩に貢献します。

予防接種には、人種や民族、宗教や障害といったさまざまな障壁が立ちほだかります。Gaviは公平性を原則と

図8

保健システムへの投資による予防接種アジェンダ2030達成



してそれぞれの国ともに保健プログラムの策定を進めます。さまざまな伝統的ジェンダー観に基づくヘルスケアへのアクセスの不公平を特定し、対処することは予防接種の実施向上のカギとなります。たとえばトーゴでは、ターゲットとなるコミュニティーの父親たちに直接働きかけることで、それまでワクチン接種を受けてこなかった子どもたちの80%以上に接種を行うことができました。またパプアニューギニアでは、地元のリーダーと宗教指導者の双方と協力することで、女性の保健医療従事者の安全が改善されました。

次の戦略期間において、Gaviは各国を支援し、その多くが女性である介護者や保健医療従事者が直面するジェンダーに関連した障壁を取り除きます。その取り組みは、保健サービスを女性と少女にとってより安全でアクセスしやすいものにし、女性の保健医療従事者の募集とトレーニングを支援し、職場に特有のニーズに対処し、母親にとって便利な場所と時間でサービスを提供することなどが挙げられ、父親への働きかけと並行して行われます。Gaviは引き続き、エチオピア、タンザニ

ア、インド、ナイジェリアの非営利団体ガール・エフェクト (Girl Effect) とのパートナーシップを通じてジェンダーに関連する障壁を取り除き、HPVワクチンの需要を促進します。またGaviはこれからも、女性のエンパワーメントと、ワクチン推進に関わる意志決定への関与を目指すイニシアチブや研究を支援します。

不安定な社会や紛争、人道支援下の環境にこそ、世界で最も弱い立場の子どもたちが暮らしているのです。このような環境におけるGaviの支援は、必須の保健サービスと基本的な予防接種に焦点を絞っています。次の戦略期間では、過去の経験からの教訓に基づいて脆弱性と人道問題へのアプローチを練り直し、危機的な紛争や気候ショックに見舞われた脆弱な環境に置かれ、予防接種が不足している子どもやゼロドーズ児にワクチンを届けていきます。このような複雑な状況では、これまで以上に迅速かつ効果的でフレキシブルな支援が求められます。たとえば、国家に属さない場所や人道支援の現場での実施には、状況に合わせた実施計画を立案します。そこに暮らす人々には複合的なサービスと

ワクチンにアクセスしやすい方法が求められるからです。Gaviは危険なエリアへの安全なアクセスを実現してくれる新たな人道支援パートナーとも連携し、脆弱な状況下にある人々に支援を届けます。多くの場合、安全なアクセス確保のための交渉は、コミュニティをよく知る地元根拠に根ざしたCSOが担い、ワクチンプログラムの拡大に一役買っています。ジェンダーに配慮した計画立案は引き続き、複雑な状況下におけるプログラムの設計と実施の中核をなします。新たなE型肝炎ワクチンが初めてGaviの支援で供給されますが、これは特に、国内難民として避難キャンプに暮らす妊婦に恩恵をもたらします。



予防接種は人々と、人生を通して欠かすことのできない保健サービスとをつなぐ入口です。そして強靱性に富んだプライマリ・ヘルスケアの礎なのです。

チェゾバ・ウォノディ

ワクチンアクセスを推進する女性
性の会 (WAVA) 創設者



4 パートナーシップの強み



ガーナ・ケニア・マラウイ

Gaviはパートナーであるグローバルファンドとユニットエイドとともにガーナ、ケニア、マラウイにおけるマラリアワクチンの定期接種の試験運用に資金提供し、2024年のワクチン導入に道をひらきました。

Gavi/2021年/White Rhino Films-Lameck Orina

Gaviは世界的な予防接種に関わるすべてのステークホルダーをまとめ、ユニークかつ強力なアライアンスを作り上げました。2026～2030年、ルサカ・アジェンダの精神にのっかって協力関係を強化することで、Gavi史上最も野心的な戦略期間に取り組みます。

Gaviワクチンアライアンスは世界的な予防接種の実施を目指すパートナーを一堂に介して設立された官民パートナーシップです。そのモデルはプログラム実施国のリーダーシップ、ユニセフ、WHO、世界銀行、米疾病対策センター（CDC）および研究機関の専門スキル、そしてワクチン製造業者の研究・生産能力、民間部門、ドナー国政府およびビル&メリンダ・ゲイツ財団のノウハウと支援、をして世界中の市民社会組織が持つ予防接種の提供と啓蒙活動のスキルをひとつにまとめています。

アライアンスは多大な実績を上げていますが、国連の持続可能な開発目標（SDGs）の達成期限まで残すところ5年となり、多くの目標は未だ道半ばです。紛争地や不安定な地域ではゼロドーズ児が増加し、気候変動は感染症を広め、インフラにダメージを与え、強制的な移住や経済的困難は対応をますます難しくしています。この複雑な状況を解決するには、新しいアプローチが必要なのです。

そのためにもGaviの連携モデルを拡大し、2026～2030年の間に各国のニーズと優先事項に基づくより強力なパートナーシップを構築します。つまりこれからはますますグローバルな保健組織と協力して活動することになります。そのパートナーには、感染症流行対策イノベーション連合（CEPI）、グローバル・ファインランシング・ファシリティ（GFF）や世界ポリオ撲滅計画（GPEI）が挙げられます。また新たな専門スキルを持つ地域パートナーとして、アフリカ疾病管理予防センター（アフリカ CDC）、さらに多国間開発銀行（MDBs）やその他の開発金融機関（DFIs）との金融パートナーシップも強化します。

GPEIの中核パートナーとして、Gaviは引き続きワクチンと定期予防接種を提供し、ポリオ根絶に向けた世界的な取り組みを支援していきます。取り組み成功へのカギは、あらゆるチャンスを生かして予防接種を受けていないあるいは接種が不足している子どもへの予防接種を実施することです。パートナーとの協力を通じて、ポリオのハイリスク地域へよりの確に投資を振り向け

ていきます。2026～2030年で、Gaviは不活化ポリオワクチン（IPV）を含む6種混合ワクチンの導入および供給開始を推し進めます。これはポリオのない世界というゴールに到達するための重要なツールとなります。



健康は発展に欠かせません。ワクチンは最も成功した費用対効果のよい健康への投資であり、特に子どもを感染症から守ることに役立ちます。私たちはパートナーであることを誇りに、これからも力のあるGaviとの協力関係を楽しみにしています。

アジェイ・バンガ
世界銀行総裁

パートナーシップと連携にコミットしながら、Gaviは中核となるミッションに焦点を絞つつ、他と重複することがないように、2026～2030年の戦略立案と投資機会を調整しました。例を挙げると、Gaviの国レベルの計画は世界銀行の国際開発協会（IDA）が提供する資金を補完し、WHOのガイドラインを考慮し、さらに予防接種プログラムをプライマリ・ヘルスケアサービスへと統合していきます。詳細にわたる国別データをグローバルファンドと共有することで、結果に結びつく最適なマラリア対策の組み合わせを導き出します。パートナーとのパンデミック基金を通じた共同プロジェクトが、ワクチンで予防できる感染症に関する各国の監視・流行対応を支援するための介入策の中心となります。



予防接種は各国と次世代への最も費用対効果の高い投資です。

メクデス・ダバ・フェイス
エチオピア保健相

国連の持続可能な開発目標 (SDGs) の各目標に対する予防接種を通じたGaviの貢献

予防接種は世界の保健衛生におけるもっともお買い得な取り組みのひとつであり、SDGsを達成するカギ



- | | | |
|--|--|--|
| <p>1 貧困をなくそう
健康な子どもたちと家族は繁栄につながります</p> | <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
予防接種のための効率のよい設備はよりきれいな環境につながります</p> | <p>13 気候変動に具体的な対策を
予防接種は気候変動に対処するための費用対効果の高い介入策です</p> |
| <p>2 飢餓をゼロに
予防接種と栄養のある食事は感染症の原因となる栄養失調を防ぎます</p> | <p>8 働きがいも経済成長も
健康な人々はより生産的な労働力となります</p> | <p>14 海の豊かさを守ろう
ワクチンは水路への抗生物質の流出レベルを抑え、近隣住民を守ります</p> |
| <p>3 すべての人に健康と福祉を
予防接種は健康と福祉を促進します</p> | <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう
革新的な製品は健全なワクチン市場を構築します</p> | <p>15 陸の豊かさを守ろう
ワクチンは土地利用の変化によって発生する感染症を防ぎます</p> |
| <p>4 質の高い教育を
予防接種は教育の向上につながります</p> | <p>10 人や国の不平等をなくそう
より健康であればより公平になります</p> | <p>16 平和と公正をすべての人に
強固な保健システムが長期の安定につながります</p> |
| <p>5 ジェンダー平等を実現しよう
女性のエンパワーメントと子どものワクチン接種向上のために必要な介入を</p> | <p>11 住み続けられるまちづくりを
都市部での予防接種プログラムは健康な都市を育てます</p> | <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう
Gaviの官民パートナーシップモデルは予防接種推進の原動力です</p> |
| <p>6 安全な水とトイレを世界中に
ワクチンと水、衛生設備や衛生が感染症を防ぎます</p> | <p>12 つくる責任つかう責任
予防接種に関わる技術が責任あるワクチンの消費と生産を促します</p> | |



Gavi/2024/Dominique Fofanah

ルサカ・アジェンダ

Gaviはグローバルヘルス・イニシアチブの未来 (FGHI) において果たした役割を誇りに思っています。FGHIは期限付きのマルチステークホルダーによるプロセスであり、2023年、ケニアとノルウェーの共同議長のもと、次の10年とその先を見据え、目的に則した国際的なヘルス・ファイナンス・エコシステムを形成するための集団的行動の促進を目指しました。FGHIを通じて、Gaviはグローバルヘルス・イニシアチブの未来に向けた5つの重要なシフト¹⁴を示したルサカ・アジェンダ¹³の発表に貢献しました。

この提言は各国で確実に結果を出すための新たな取り組みへと転換されます。Gaviは今までなかった取り組みとして、グローバルファンドとともにマラリアの対策に取り組んでいます。これは、今後長きにわたって協力を拡大していくための貴重な機会となります。マラリアワクチンの供給を求めるすべての国々が自国のマラリア戦略計画にワクチン接種を組み込んでおり、国のワクチンプログラムとマラリア対策プログラムを調整するメカニズムを立ち上げています。世界レベルでは、グローバルファンドの技術検討委員会のメンバーがマラリアワクチン申請レビューに積極的に参加しており、両組織はマラリアワクチン導入を目指す国々に対する個別および共同資金提供するための概要を示すべく、WHO

ガイダンスに沿った各国向けおよび共同ガイダンスをまとめています。2026～2030年の戦略期間を通じ、Gaviはマラリアワクチン接種に関わる活動に対する協調融資や資金提供、支援をグローバルファンドとともに深化させていきます。共同支援の経験から学び、その教訓をローカル、世界レベルでマラリア対策パッケージを最優先にする際のエビデンスとして生かすこともその一環です。

グローバル・ファイナンス・ファシリティ (GFF) とグローバルファンドとともに、Gaviは保健システム強化のための投資、各国が直面するプロセスの簡略化支援、そしてボランティアとして志願した「パイオニア」国からの学びの融合をますます拡大していきます。同じ建物にオフィスを構えるGaviとグローバルファンドは事業管理機能や設備の共用におけるシナジーをレバレッジする新たな道を探っています。3つの組織間で協力の合意がなされた分野に集中したワーキンググループが設置され、各理事会を横断する作業の案内役となり、共有するヴィジョンを確認し、機会と課題を特定する役割を担います。エチオピアにおける医薬品サプライチェーン向上やマリにおけるコミュニティで働く保健医療従事者への支援の枠組み強化など、すでに実績を上げている共同事業が判断の材料となります。

5 持続可能でイノベーティブなメカニズムによる資金調達

インドネシア

Gaviの支援からの移行後、インドネシアはHPVやロタウイルス、肺炎球菌結合型ワクチンを全国で導入しました。

UNICEF/2023年/Dwi Prasetya

Gaviモデルはこれからもユニークかつパワフルな支援パッケージを支援国に届けます。仲介的投資とワクチン製造パートナーシップを活用し、各国がワクチン接種と持続可能な未来に向けたみずからのコミットメントを強化できるようサポートするのです。Gaviの支援を受ける国々は、2026～2030年の定期予防接種に使用するワクチン費用の40%以上を自国で負担します。

自国資金調達を通じた持続可能性の推進

国内の予防接種プログラムに対する各国のオーナーシップ(主体性)は、Gaviの活動すべての根幹にあります。そしてグローバルヘルスにおける国家投資と国内資金動員を促す、最も成功したモデルのひとつでもあります。すべての国々が自国のワクチンプログラムの資金調達にコミットし、その負担額は時間を追うごとに資金力に応じて大きくなります。慎重に計画された支援により、各国は最終的にGaviの支援から完全な自国でのワクチンプログラム運営に移行します。

Gaviの支援を受けた19ヶ国が、すでに完全に移行し、自国のワクチンプログラムに自己出資しています。2025年末までに、Gaviが支援する国々が2008年以

降自国のワクチンプログラムに出資した金額はおよそ52億米ドルに達します。COVID-19のパンデミックが与えた甚大なプレッシャーにもかかわらず、各国は本戦略期間にコミットしていたワクチン費用の96%までをまかっています。¹⁵この結果は、地元の市民社会組織やIMFなどアライアンスのパートナーの支援のもと、各国の保健相と財務相による働きかけの後押しで実現しました。Gaviの資金調達モデルの対応能力と予防接種プログラムにおける各国の回復力を示したわけです。

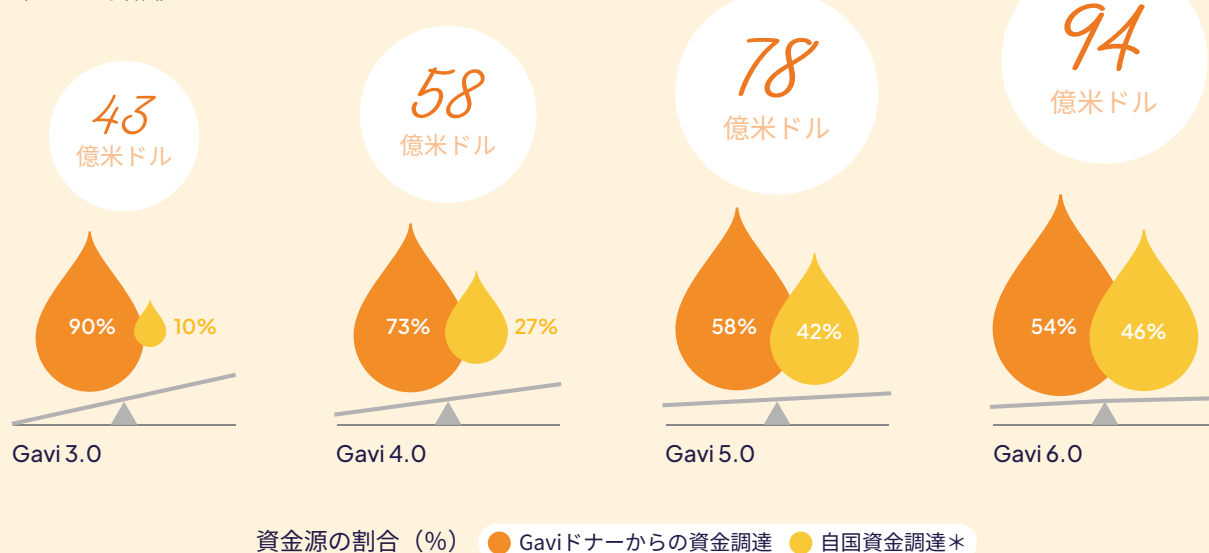
次の戦略期間、Gaviは自国資金調達と関与モデルを強化し、債務レベルの上昇や予算圧迫など、パンデミック以降プログラム実施国が直面している課題に対応できるようにします。パートナーとの協力を強化すること

図10

これまでの各国による定期ワクチン費用向け協調融資およびドナーによる資金提供

定期ワクチン費用の合計

(Gaviおよび各国)



備考: *は協調融資、自己資金およびインドを含む。

で、未来保証モデルへと移行し、各国の債務不履行リスクを緩和し、Gaviの支援から確実に持続可能なカタチで移行に成功できるようにするのです。このようなシフトが行われる中、2026～2030年の戦略期間ではプログラム実施国はこれまで以上に自国のワクチン費用調達に貢献する見込みです。その額は協調融資と自己資金によるワクチンプログラムを合わせて40億米ドル以上に上ります。



インドネシアのような中所得国に対するGaviの支援は、新たなワクチンの導入と手頃な価格でのアクセスに不可欠です。今こそ予防接種を通して、より強い回復力に富んだ未来の土台を強化する時です。

ブディ・グナディ・サディキン
インドネシア保健相

革新的な資金調達力を活用

各国の資金調達を補完するため、Gaviは革新的な資金調達をさらに拡大し、ワクチンで予防できる感染症との闘いに生かします。Gaviが与える影響力は、予防接種のための国際金融ファシリティ (IFFIm) などの革新的なモデルによってさらに増えています。次の戦略期間では、世界銀行やアジア開発銀行、欧州投資銀行 (EIB)、アフリカ開発銀行、アジアインフラ投資銀行などの多国間開発銀行と協力しながら、Gaviは予防接種プログラムへの貸し付けを増額し、少なくとも10億米ドルのMDBによる新たな各国向け投資を創出するべく努めます。また、COVID-19パンデミックで構築された、EIB-IFFImの信用状などに裏打ちされた資金パートナーシップを拡大します。その方法として、プログラム実施国におけるワクチンプログラムの規模拡大と効率化をさらに推し進めるため、保証の拡大や、保険や外国為替など新たな資金提供分野との新たなインパクトの大きいパートナーシップの構築などが考えられます。



図11

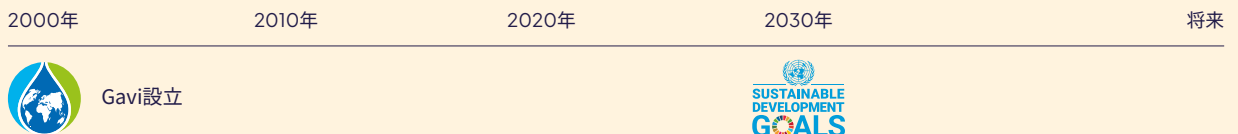
より大きなインパクトに向けた金融パートナーシップの実現

2020年からの非助成型金融パートナーシップを通じた40億米ドルを超えるドナー資金のインパクトを拡大します



現在の財務パートナーシップのタイムライン

財務パートナーシップは上記のみに限らない



間接費用を抑える

過去20年以上を通じて、アライアンスの強みのひとつがコンパクトで効率的なGavi事務局がパートナーと手を取り合って活動するというネットワークアプローチです。Gaviでは、1米ドルのうち97セント以上がワクチンプログラムの支援に使われます。

この効率的な実施モデルは2026~2030年の戦略期間も続きます。野心的かつオペレーショナルエクセレンスを実現したプログラムの実施のため、事務局の間接費用は今後も予算全体の3%以下に抑えられます。事務局の業務を簡略化・効率化することで、むしろGaviがタイムリーに各国やパートナーを支援できるよう変わっていくという効果を生み出しています。

6 グローバル市場の形成



スーダン

2022年、スーダンでゼロドーズ予防接種プログラム (ZIP) がスタート。このプログラムの教訓は次の5年間に脆弱な紛争地などに暮らすゼロドーズ児にワクチンを届けるためのGaviのアプローチに役立てられる。

Gavi/2022年

市場形成の取り組みを通じて、Gaviは最も支援を必要とする国々が命を救う新たなワクチンの恩恵に手頃な価格で確実にアクセスできるよう支援します。2026～2030年の戦略期間はワクチン市場が引き続き低中所得国に有利に働き、次世代のワクチン開発を促すよう取り組みを強化します。

価格削減・アクセス向上・ワクチン市場の安定

20年以上にわたり、Gaviの市場形成への取り組みはワクチンをめぐるグローバルな環境を変えてきました。2000年代初頭、低所得国向けのワクチン市場は見当たりませんでした。ワクチン製造業者はその予算と関心の大部分を高所得国の市場に向けていたからです。官民パートナーシップモデルを掲げるGaviの設立は、低所得国のための代替モデルを生み出す助けとなりました。Gaviがプログラム実施国のためにプール調達を促したのです。つまり、ワクチン製造業者が大規模かつ低価格で新たな市場に投資することができるわけです。



ワクチンは歴史上最もパワフルな発明のひとつです。Gaviに対する投資を途切れさせることなく増やしていくことで、これから何十年にもわたってその能力を活用し、何百万人もの命を救うことができるのです。

テドロス・アダノム・ゲブレイエス

WHO事務局長

市場形成アプローチの中核をなすのが手頃でありながら持続可能なワクチンの価格設定です。ドナー資金と各国との協調融資というGaviの資源が長期にわたり最大限のインパクトを与えるよう、効率的に活用されます。そこから導き出された結果は驚くべきものでした。2001～2005年の戦略期間において、Gaviは低所得国に対し6つの感染症ワクチンへのアクセスを提供しましたが、次の5年間には24種のワクチンにまで拡大されたのです。1人の子どもに5種混合ワクチン、肺炎球菌ワクチン、ロタウイルスワクチンをフルに接種した場合のコストは、2010年からおよそ60%削減されました。堅固な供給基盤により、適正な製品の供給可能性と供給保証が向上したことによって「健全」と指定された低所得国向けワクチン市場の数は、2015年の1ヶ所から2023年には10ヶ所にまでなりました。

このアプローチはワクチン製造者の拡大と多様化を押し進め、今や世界中に広がっています。Gaviがワクチンの購入を始めた2000年代初頭、購入先の製造業者はわずか5社、そのほとんどが欧州とアメリカの企業でした。20年以上が経った今、12ヶ国の19社が事前認定済みのGaviが支援するワクチンを供給しています。その半数以上が低中所得国に拠点を置いていることは、地域的な供給保証のリスクを緩和する意味からも重要です。¹⁶ 今やGaviは、ほぼ全大陸からワクチンを購入するようになりました。今後10年でGaviの地域製造戦略は、世界のすべての地域におけるワクチン製造の支援に乗り出します。そして新たなアフリカワクチン製造アクセラレーター (AVMA) がアフリカ大陸における持続可能なワクチン製造の条件を整えます。

2026～2030年の戦略期間で、Gaviは市場形成の取り組みを加速させ、ワクチン市場が引き続き低中所得国に利するよう努めます。現在の状況がプログラム実施国とドナーにとって厳しいことを踏まえ、Gaviはすべてのワクチン市場において製品区分の最低50%のワクチンの価格を最低限まで削減するよう促します。それと同時に供給保証を注視し、ひとつの戦略期間を通じた前例のないコミットメントを続けます。これにより、各国は低価格の製品を選ぶことができ、8億米ドル節約できます。

次世代のワクチン製造を形作る

Gaviは次の戦略期間という比較的近い未来だけを見ているわけではありません。現在、世界はワクチンテクノロジーの革命期を迎えており、さらに多くの命を救うための新しいワクチンとイノベーションの見通しも立っています。Gaviは技術的・科学的・財政的なスキルの提供を目的にUNICEFやWHOなどふさわしいパートナーとのパートナーシップを有する唯一の組織です。複雑な新たな市場を形成し、低所得国に適正な価格で十分に供給するため、そのコミットメントは、多くの場合10年以上の長期にわたります。その実現のため、Gaviは事前買取制度 (AMC) や事前購入契約 (APA) などのインパクトが大きく、すでに効果が証明された資金調達イノベー



Gavi/2015年/Phil Moore

ション実施の経験を足がかりにしています。これらの仕組みは、肺炎やエボラ出血熱、マラリアやCOVID-19のワクチン開発と供給に際し、大きな影響力を発揮しました。Gaviはこれからも次世代の製品について市場を形成していきます。これには低価格で低所得国での使用によりふさわしい製品をも含みます。

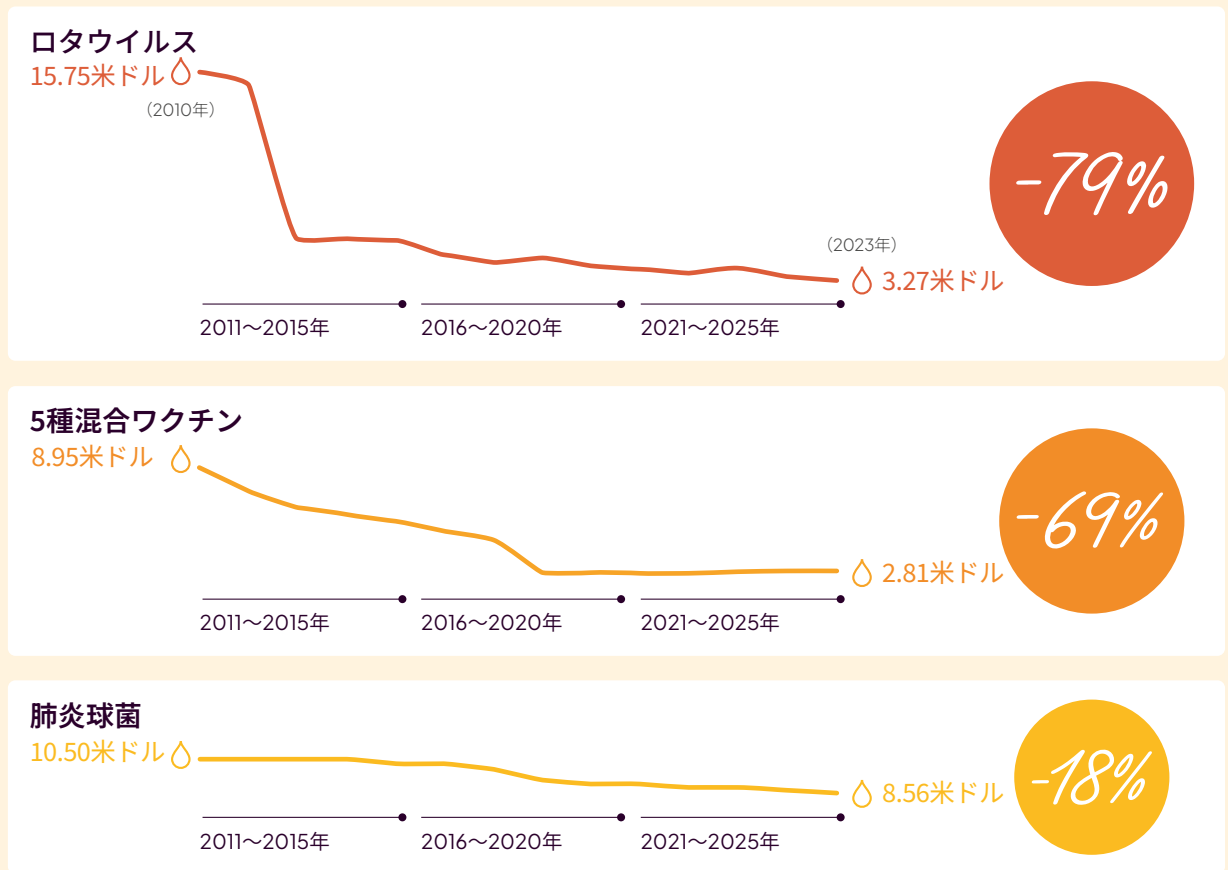
今こそインパクトを与えるチャンスです。新しい結核ワクチンが中所得国に加え低所得国にも大きな恩恵を与えることが期待されます。グローバルファンドやWHOの結核ワクチンアクセラレーター、結核ワクチン推進協議会などの重要なステークホルダーとのパートナーシップ

で、タイムリーに市場形成に介入することは2030年代以降の需要と供給を確実にマッチさせるために大きな役割を担います。世界的なコレラの流行を抑制するために欠かせないのが経口コレラワクチン(OCV)へのアクセス拡大の取り組みと、ターゲットを絞ったタイムリーなワクチン接種を支えるコレラの診断です。Gaviの役割は明確です。ますます増大し、いっそう予測不能になった支援対象国からのワクチン需要に対応するには、増産が必要であり、次の戦略期間を通して積極的に市場形成に取り組まなければなりません。新たな供給者の必要性は、OCVがAVMAからより高いレベルの支援を受けるワクチンのひとつであることから明白です。

図12

Gaviは20年以上にわたり新ワクチンの価格を設定効率化を促し低所得国への供給が増加

ワクチンの加重平均価格(子どもに完全に予防接種を実施するためのコスト)*



備考: *価格は上記ワクチンに関するGavi支援国向けのUNICEF入札価格による。

Gaviはこれからも**技術革新**に目を配り、ワクチンの供給とインパクトの拡大を目指します。**マイクロアレイパッチ(MAPs)**は針ではなくパッチによって接種するワクチンで、ゲームチェンジャーとなる業界の革新的技術のひとつで、アウトブレイク対応とこれまで届かなかったコミュニティへの拡大を容易にします。麻疹・風疹ワクチンのMAPsは、次の戦略期間の終盤に向けて実用化される見通しです。



マラリアとの闘いから麻疹の予防まで、私たちのゴールはコートジボワールでの予防接種率を向上させることです。欠くことのできないGaviの支援があればこそ、私たちは子どもたちのための健康で豊かな未来に投資し続けることができるのです。

ピエール・デンバ
コートジボワール保健相

7 民間部門による後押し



ガーナ

Zipline社とのパートナーシップにより、2019年からガーナ全域に接種1300万回分以上のワクチンが届けられています。

Gavi/2019年/Tony Noel

複数のステークホルダーが参加するエコシステム構築に成功した歴史が証明するように、Gaviは引き続き民間部門が持つ重要なイノベーションと専門性を力に、必要とされる資金提供のコミットメントを増大させ、各国に与えるインパクトを一気に加速させます。

2011年以降、革新的な資金調達メカニズムであるGavi マッチング・ファンドは予防接種に対する民間部門の貢献拡大を後押しし、またGaviの中核となるプログラムとCOVAXプログラムの双方に対する民間部門の資金提供を仲介する重要な役割を担ってきました。現在までに、35のパートナーシップを通じて5億米ドルを超える投資を促しました。2026～2030年の期間中、少なくとも1億米ドルのGaviマッチング・ファンドが多様な民間部門のパートナーからより多くの資金提供を促します。そしてこれらの資源は、たとえばHPVやマラリアワクチンなどの優先すべき画期的なワクチンや、ワクチンの需要創出やサプライチェーンと調達力、予防接種のためのデータなど戦略的に注目する分野を推し進めるインパクトの大きな民間部門のプログラムに振り向けられます。



イノベーションを拡大するために公共部門と民間部門の能力と資源を生かしたことがGaviの成功のカギです。それこそがGaviの突出した点であり、私たちが何千万回分ものワクチンを配送できるようにした力なのです。

ケラー・リナウド・クリフトン
Zipline社CEO兼共同創業者

2016年以降、Gaviの予防接種への理解と接種規模の拡大、そして平等な機会のためのイノベーション(INFUSE: Innovation for Uptake, Scale and Equity in Immunisation)は、Gaviが支援する国々で供給を拡大し、価格を削減し、健康上の成果を改善し、効率を向上させるためのイノベーションを育ててきました。毎年、最も将来性が期待されるイノベーションが選抜され、INFUSEペースセッターとしてGaviとパートナーの支援を受けます。

各地の起業家とアライアンスのパートナーを結びつけることで、INFUSEはイノベーションのエコシステムを構築し、予防接種に革命的な変化をもたらす新たなアイデアとテクノロジーを生み出します。しかしながら、予防接種への成果をもたらすため持続的に長期にわたって効果を増大するという目的に特化した資金調達は、すべての人のためにその成果を倍増・再現する上で主要な障壁です。

そこでGaviは保健システムと2026～2030年のイノベーションへのアプローチに沿って、新たなイノベーション・スケールアップ基金向け民間部門資金に加え、2～3億米ドルを調達する方針です。この基金は変革を起こしうる成熟したイノベーションの供給増大と各国からの需要があるイノベーターとをつなぎます。公募を通じて基金が需要をまとめ、特定の成果に向けるわけです。競争的調達と成果連動型融資の手法は、ゼロドーズ児やドローン配送、デジタルキャンペーンツールやコールドチェーン危機など、これまでの投資分野から学んだものです。また、分断を抑え各国へのインパクトを向上させるためのイノベーションと保健システム強化を目指すGaviの他の資金調達メカニズムとも連携します。

緊急の課題である気候と予防接種を重点に(2024年INFUSE イノベーションの呼びかけ)、変化を続ける課題と脅威に対応するためどうしても必要な革新的な解決策の次のチャプターに対し、GaviはINFUSEを通じ、引き続き資金を提供します。新たな民間部門とのパートナーシップを通して、Gaviは人工知能(AI)とデータサイエンスの力を利用し、Gavi事務局の業務と各国のワクチン配送を変革していきます。今こそ民間部門の多面的な力を、誰もが守られる未来の実現に結びつける時なのです。

民間部門の協力によりインパクトを与える





“

Gaviが際立つのは、いかに未来に備えているかという点です。新たな予防接種を導入し、戦略的なパートナーシップを構築し、革新的な取り組み方を模索し、より安全で健康な未来を世界のすべての人々にもたらそうとしているのです。

ンディディ・オコンクウォ・ヌネリ
ワン・キャンペーン代表兼CEO

8 ドナーによる支援



Bangladesh

世界最大の難民キャンプでGaviが支援するワクチンを子どもに接種する Bangladesh・コックスバザール県の保健医療従事者イリン・ターヘル・ピク。

Gavi/2023年/Ashraful Arefin

5億人の子どもたちにワクチンを接種し、800万～900万人の命を救い、世界健康安全保障に多大に貢献し、予防接種システムを強化し、1000億米ドルを超える経済的利益を生み出すため、2026～2030年の戦略期間中、Gaviは少なくとも119億米ドルを支出しなければなりません。

ワクチンプログラム

資金調達が成功すれば、Gaviは2026～2030年の戦略期間にワクチンプログラムに対し**66億米ドル**を投資します。ここでいうワクチンプログラムには、既存のプログラムのためのワクチンの継続・拡大とともに、新たな革新的ワクチンの導入も含まれます。Gaviのワクチンプログラムは世界の最貧国に暮らす人々の健康を大きく改善し、それによって世界的な健康安全保障の向上を支援しているのです。

予防接種システムおよびインフラの強化に対する投資

Gaviは次の戦略期間に予防接種システムおよびインフラの強化に対し**50億米ドル**を投資します。投資対象には各国でワクチンの公平で持続可能な供給を実現するために欠かせない数多くの活動が含まれます。サプライチェーン、データシステム、予防接種プログラムの管理とガバナンスを強化すること、そしてより広いプライマリ・ヘルスケアの仕組みに統合することなどが挙げられます。また、予防接種キャンペーンの資金やGaviのパートナーを通じた各国への予防接種プログラム実施支援、事務局の運営費などにも充てられます。

さらに、Gaviの支援のほとんどが低所得国向けである一方で、小島嶼(しょうとうしょ)開発途上国(SIDS)を含む**中所得国(MICs)**の中にも、高い予防接種率を維持するにあたり特殊な課題に直面している国々があります。2026～2030年からのGaviの支援は、前の戦略期間の終盤で成功裏に実施された中所得国向きの革新的な取り組みを土台としており、カギとなる予防接種の利益を守りHPVのような重要ながら欠けているワクチンの持続的な導入に向けて**2億5000万米ドル**を提供します。またGaviは、手頃な価格のワクチンへのアクセスと安定したワクチン供給、そして技術支援と知見の共有を通じて中所得国を支援します。

2026～2030年の確定資金

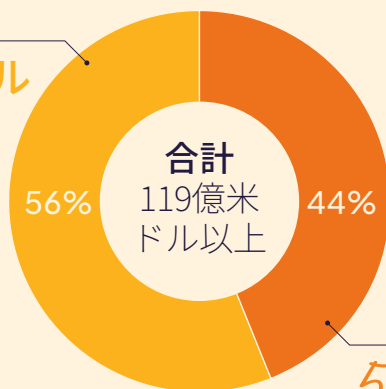
暫定的ですが、Gaviは次期戦略期間の資金として、**29億米ドル**を確保できる見通しです。その内訳は、主にドナーから予防接種のための国際金融ファシリティ(IFFI)への既存拠出金および延長予定の予備拠出金、投資収益、Gaviが保有する現金の引き出しと投資準備金です。また、COVAX事前買取制度(AMC)のパン

図14

2026～2030年におけるGavi支出の概要

ワクチンプログラム

66億4200万米ドル



予防接種システムへの投資と運営コスト

52億2700万米ドル

デミック・ワクチン・プールに残った資金の一部を含み、この部分はドナーの承認が必要です。



オーストラリアは子宮頸がんとの闘いにおいてGaviを強く支持し、HPVワクチンの東南アジアと太平洋地域への導入を喜ばしく思っています。これは私たちの地域における健康と福祉に大きく貢献するものです。

ペニー・ウォン

オーストラリア外相

2026～2030年の追加資金

次の戦略期間における野心的な目標を達成するため、Gaviは2026～2030年向けの資金を少なくとも90億米ドル調達しなければなりません。これは追加の直

接資金提供とIFFImを含む革新的な資金調達システムを通じて行われます。これは2020年に、2021～2025年の戦略期間向けにグローバル・ワクチン・サミットで集められた資金総額と同額で、調達するワクチン数が33%近く上昇したのに加え、新ワクチンの高価格によってGaviのワクチンポートフォリオの平均価格が押し上げられたにもかかわらず達成されました。



予防接種とジェンダー平等は強く結びついています。予防接種とヘルスケアへのアクセスが向上することで、女性と少女の自己決定権が高まると同時に、世界はすべての人々に公平になっていくのです。

アーメッド・フッセン

カナダ国際開発大臣

図15

2026～2030年にGaviが必要とする資金額



IFFImを活用すべき理由

2006年にワクチン債が初めて市場に出されて以来、予防接種のための国際金融ファシリティ (IFFIm) はドナーに対し、ワクチン債を通じて長期の拠出誓約を前倒して行う手段を与え、それによってGaviは命を救うワクチンプログラム支援のための、即時かつ長期的に予測可能な形で柔軟に使える資金を確保できることとなります。オーストラリア、ブラジル、カナダ、フランス、イタリア、オランダ、ノルウェー、南アフリカ、スペイン、スウェーデンおよび英国など、ドナー国からの支援の上に、IFFImはこれまでに58億米ドルをGaviのワクチンプログラムに提供しました。この仕組みがなければ、これほど早く命を救うプログラムを実施することはできませんでした。

IFFImはGaviにとってCOVID-19パンデミック対応をはじめとする不確定要素に満ちた時代に必要な時に、必要な資金を投入するためには欠かせない柔軟性をもたらすツールです。G7主導で行われた世界的なパンデミック対応¹⁷においてもGaviが初期から築いてきた協力の仕組みが下支えとなりました。

2021～2025年の戦略期間でIFFImはGaviの中核をなすプログラムに向けた前倒しかつ柔軟な資金

を最大限にしたほか、GaviがCOVID-19パンデミック対応にあたって使用できた最初の資金源でもありました。現在の戦略期間でIFFImの資金力を最大限に活用するという事は、次の戦略期間に確定しているIFFImのGavi向け資金が6億5500万米ドルにとどまるという意味でもあります。これは2021～2025年の戦略期間開始時点に比べて56%少ない資産残高です。

Gaviが2026～2030年の野心的な目標達成を目指して準備を進める中、その効果が証明されたIFFImのモデルは、マラリアや6種混合ワクチンなどの新たな革新的ワクチンの早期導入と拡大を可能にする前倒しの資金確保に不可欠です。さらにGaviがワクチン製造業者と低価格で長期の買取契約を締結し、各国のニーズに柔軟に対応し、新たなアウトブレイクなど予想外の事態に速やかに対応するためにも欠かせません。そのためにもGaviは、IFFImが2026～2030年の戦略期間に必要なGaviの資金のうち20%程度をまかなえるよう、新たな長期のドナー誓約をお願いするものです。確定資金が**6億5500万米ドル**であることを考慮すると、IFFImへの拠出誓約は実質的に**17億米ドル**となります。



ともに行動を

手を携え未来を 守りましょう

設立以来20年にわたる活動により、Gaviワクチンアライアンスは史上最も成功した開発イニシアチブのひとつに数えられるようになりました。Gaviは人々の健康向上における前例のない進歩を牽引し、各国と連携して命を救うワクチンへのアクセスを変化させることで、子どもの死亡率を半減させる力となりました。



子どもたちがワクチンで予防できる病気で命を落とすことがあってはなりません。Gaviを通じて、私たちはこれからも命を救うワクチンと、それを必要としている子どもたちの橋渡しを続けます。

キャサリン・ラッセル
UNICEF事務局長

イノベーションはすべての活動に深く根ざし、それを支えています。新たなワクチンテクノロジーであろうが、国を最優先にするパートナーシップの拡大、前例のない資金調達メカニズム、あるいはより大きな経済的利益であろうが、イノベーションはGaviの活動における大黒柱であり続けます。そして協力体制やパートナーシップを通じて、Gaviは何百万もの家族の命を守り、重要な保健システムを強化し、グローバルな健康安全保障を拡大し、世界中の国々に経済的利益をもたらす助けとなりました。

これだけの実績を上げながらも、挑む課題は難しさを増すばかりです。世界的な気候危機は命を脅かす病気の流行を拡大し、生物媒介・水媒介の病気を蔓延させ、保健システムを弱体化させています。紛争と不安定さは、貧困や疾病に対して人々を脆弱にします。そして毎年150万人の子どもが、手頃なワクチンへのアクセスさえあれば簡単に予防できた感染症で命を落としています。国連の持続可能な開発目標の期限まで残りわずか5年。事態は一刻を争います。

Gaviの新たな戦略期間はかつてないほど多くの子どもたちに予防接種を行うために、インパクトを加速する新たなチャンスです。マラリアワクチンをはじめとする新たなワクチンを含むこれまでで最も幅広いポートフォリオをもって、今の世代の子どもたちを歴史上最も守られた子どもにすることができるのです。ワクチンは、将来のアウトブレイクや地域的流行、パンデミック、薬剤耐性や気候変動などの世界が直面する最大級の脅威を緩和する助けとなります。各国がそれぞれの役割を担い、定期予防接種費用の自国負担率は初めて40%を超えました。

この20年が示すのは、革新的なGaviモデルの力と柔軟性です。十分な資金と政治的な意志、そして連携と革新的なパートナーシップがあれば、Gaviはこの歴史的な実績を足がかりに、手を携え、私たちの未来を守るために取り組むことができるのです。



付録

付録1

Gaviアライアンスのメンバー

Gaviワクチンアライアンスは、世界の半分以上の子どもたちに、命を脅かす感染症から身を守るワクチンを接種することを目指す官民パートナーシップです。Gaviには、途上国とドナー国政府、WHO、UNICEF、世界銀行、ワクチン業界、研究・技術機関、市民社会、ビル&メリンダ・ゲイツ財団、そして民間部門のパートナーが参加しています。コアパートナーであるWHO、UNICEF、米CDC、世界銀行とともに、Gaviは命を救うワクチンへのアクセスを最も必要としている国々で加速させています。

図16

Gaviのメンバー



グローバルヘルスの諸問題に関する国連の専門機関として、WHOは予防接種プログラムについてのガイダンスおよび技術支援を各国に提供します。WHOは研究開発を支援し、ワクチンの質に関する基準を設け規制します。また、エビデンスに基づいた政策的選択オプションを策定することで、ワクチン使用や各国のワクチンへのアクセスを最大化するための支援を行います。

UNICEFは世界最大のワクチン購入機関および途上国への供給機関として、アライアンスのために調達を行っています。その役割はGaviが支援する国々における予防接種プログラムの実施と、アライアンスの政策策定の双方においてきわめて重要です。また、各国が予防接種率やその公平性を改善するにあたっての障壁を分析し、克服する手助けをしています。

1999年にビル&メリンダ・ゲイツ財団が提供した拠出金7億5千万米ドルがGavi設立の元手資金となりました。財団はアライアンスのワクチン市場形成への取り組みにおいて、技術的・財政的な役割を担い、強い支援者であり続けています。

世界銀行は世界最大の開発支援資金機関としての専門知識をアライアンスに提供しています。またGaviの革新的な資金調達メカニズムに対する信用を保証する機関でもあります。さらにIFFImの設立を支援し、現在はその財務アドバイザーと財務マネージャーを務めているのに加え、肺炎球菌ワクチンの事前買取制度(AMC)の支援も行っています。

Gaviプログラム実施国はアライアンスで最も重要なメンバーです。予防接種にかかわるニーズを特定し、協調融資とワクチンプログラムの実施を行います。

ドナー国政府の経験と資金は、開発プログラムにおいて保健が優先事項として扱われ、アライアンスの戦略に資金が提供され、Gaviの予防接種における貢献が他のドナーの保健介入策を補完することを確実にします。

市民社会組織(CSO)は、近づくのが難しい遠隔地やコミュニティへのワクチンの提供、ワクチンプログラムの実施および予防接種に関する啓蒙活動を支援します。その活動には需要の増加、説明責任や国内の資金動員などが含まれます。

Gaviは製薬業界のワクチン製造企業とパートナーシップを結び、低所得国のニーズに応じたワクチンを供給するための調査や技術的な知見を強化します。Gaviにワクチンを提供する製造業者の半数以上が新興の市場に拠点を置いています。

Gaviは民間部門のイノベーションや専門知識、リソースを活用し、ワクチン配送、需要の予測や創出に関する課題に対処しています。

研究・技術医療機関と連携することで、Gaviは科学、医療、製品の配送分野からの最新情報と知見を得ることができます。アフリカ疾病管理予防センター(アフリカCDC)をはじめとするGaviの技術パートナーは、予防接種プログラム配送分野の改善のための支援を提供します。

従来からのワクチンアライアンスの役割に加え、Gaviの中核となる実施パートナーであるWHO、UNICEF、米CDCおよび世界銀行は、プライマリ・ヘルスケアの枠組み内での予防接種プログラムに向けた適切かつ持続可能な資金調達と予防接種プログラムを強化する政策について啓蒙活動を行っているほか、基準や技術、プログラムに関するガイダンスやイノベーションの共有、国内の予防接種戦略を支援する技術支援や能力強化の提供、接種率の向上とプライマリ・ヘルスケア強化のための分野横断的な介入、そしてプログラムの実施状況とリスクの調査と監視も行っています。

Gaviが支援するワクチンと有効な疾患

コレラ

貧困と格差が生み出す疾患で、流行は水と衛生システムが十分に整備されていない地域や人道危機に瀕している地域にほぼ限定される。コレラは感染力が高く、急性の水様性下痢や重篤な脱水症状を起こすことがある。子どもも大人も感染し、治療しなければ数時間のうちに死亡する場合もある。

ジフテリア

直接の身体的接触またはエアゾル化した分泌物を吸い込むことによって感染する細菌性疾患。感染すると呼吸困難、心不全、身体の麻痺や死につながることもある。

デング熱

デング熱は蚊が媒介するウイルス性の感染症で、世界人口の約半数にリスクが及ぶ。かつては熱帯地域に限定されていたが、都市化や気候変動などの影響で感染地域が広がっている。ほとんどの患者に自覚症状がないものの、高熱や頭痛、体の痛み、吐き気や発疹などインフルエンザに似た症状が現れることがあり、まれに重症化してデング出血熱を発症する。

DTPブースター

ジフテリア・百日咳・破傷風混合ワクチンの追加接種は生後12～24ヶ月、4～7歳、9～15歳時に行う。3回の追加接種で、生後1年以内の1期で接種したワクチンの予防効果を継続することができる。

エボラ出血熱

エボラウイルス病 (EVD) はヒトや他の霊長類が感染する重篤な病気で死亡率がきわめて高い。ウイルスは野生の動物 (オオコウモリ、ヤマアラシ、ヒト以外の霊長類など) からヒトに感染し、そこから感染者の血液、分泌物、その他の体液に直接触れることによってヒトからヒトへと感染する。

ヘモフィルス・インフルエンザ菌B型 (Hib)

呼吸器からの飛沫によって感染し、重篤な肺炎、髄膜炎、その他の侵襲性疾患を引き起こす。感染者のほとんどは5歳未満の子ども。生存者の多くに難聴や発作、麻痺、学習障害など永続的な重い神経性の後遺症が残る。

B型肝炎

血液やその他の体液を介して感染するウイルス性疾患。B型肝炎ウイルスによる慢性肝炎は、肝硬変や肝がんなどの重篤な病気に進行することもある。B型肝炎ウイルスは肝がんの主要な原因であり、HIVより50倍も感染力が強い。

E型肝炎

E型肝炎ウイルス (HEV) が引き起こす肝臓の感染症で、衛生状態が悪くきれいな水へのアクセスが限られている地域に暮らす社会的に弱い立場の人々 (難民など) が主な患者となる。症状はだるさ、食欲不振、腹痛、吐き気・嘔吐などで、妊婦の場合は死亡率が高くなる。現在認可されているワクチン「ヘコリン」について、WHOは緊急時の使用を推奨している。世界的な使用に向けて開発が進んでおり、事前審査は2028年の見通し。

6種混合ワクチン

6種混合ワクチンは6つの感染症 (ジフテリア、百日咳、破傷風、不活化ポリオ (IPV)、B型肝炎、ヘモフィルス・インフルエンザ菌B型 (Hib)) を予防する小児用の混合ワクチン。1期は幼児期前半までに3回の接種を行う。6種混合ワクチンはそれぞれのワクチンを別の組み合わせや単独で接種するのと同様に安全かつ効果的。

ヒトパピローマウイルス (HPV)

HPVは子宮頸がんの主要な原因。検査と治療へのアクセスが限られている低所得国および中所得国に暮らす女性のがんによる死亡は、子宮頸がんによるものが最も多い。HPVは主に性的接触で感染し、多くは性行為を始めるとほとんど感染する。ウイルスへの接触が始まるよりもずっと前にワクチンを接種することが、感染を予防する一番の方法である。

不活化ポリオワクチン (IPV)

ポリオは身体障害を引き起こし、命を落とす可能性もあるウイルス性疾患で、主に5歳未満の小児がかかるとされる。感染経路は汚染された食べ物や水。感染者の200人に1人が回復不能の麻痺を起こす (ほとんどの場合が脚)。麻痺が起こった患者の5～10%は呼吸筋力が動かなくなることで死亡する。ポリオに治療法はなく、予防接種によって感染を防ぐしかない。ポリオは世界的な根絶に近づいている。

日本脳炎 (JE)

蚊が媒介するウイルス性脳炎 (脳腫脹を引き起こす感染症) で、アジアでは日本脳炎ウイルスによるものが最も多い。死亡率は30%にも達し、生存者のうち50%ほどに永続的な障害が残る。

マラリア

蚊が媒介するマラリア原虫が引き起こす感染症で、世界の熱帯地域や温帯地域で発生する。感染すると発熱、悪寒、インフルエンザに似た症状が現れ、重い合併症が生じると命を落とすこともある。マラリアによる死亡者の約4分の3が5歳未満の子ども。新たに開発されたワクチン、殺虫処理済みの蚊帳、予防的治療および殺虫剤散布を複合的に実施することで感染と発症を防ぐことができる。

麻疹

麻疹は感染力がきわめて強い急性ウイルス性呼吸器感染症で、長年、世界的に幼児の主な死亡原因である。重篤な合併症には失明、脳炎 (脳の腫脹を起こす感染症)、ひどい下痢やそれに伴う脱水症状、耳の感染症、肺炎を含む重度の呼吸器感染症が挙げられる。すべての国で麻疹の排除・根絶に取り組んでいる。

髄膜炎

髄膜炎菌 (Neisseria meningitidis) はいくつかの血清型に分類される細菌で、脳を覆う薄い膜と脳脊髄液の重篤な感染症である髄膜炎菌性髄膜炎を引き起こす。治療をしないと約50%が死に至り、生存者の10～20%に脳損傷や聴力損失、聴覚障害が起きる可能性がある。

エムボックス

天然痘に似たウイルス性の感染症。感染した動物や人との接触を通じて感染し、特に保健インフラが限られている農村部で発生する。エムボックスに感染すると発熱、頭痛、筋肉痛などの症状が現れ、その後発疹が出てかさぶたとなる。ウイルスの系統によっては死亡率が10%に達し、子どもは重症化しやすい。現在のところ事前認証されたワクチンはなく、いくつかの国では認可されているもののそのアクセスは既存の規制や政策によって妨げられている。

5種混合ワクチン

5種混合ワクチンは5つの主な感染症（ジフテリア、破傷風、百日咳、B型肝炎、ヘモフィルス・インフルエンザ菌B型（Hib））をまとめて予防する小児用のワクチン。1期は幼児期前半までに3回の接種を行う。5種混合ワクチンはそれぞれのワクチンを別の組み合わせや単独で接種するのと同様に安全かつ効果的。混合ワクチンは予防接種の実施や適時性を向上させ、ワクチンプログラムのコストダウンにつながる可能性ももたらす。

百日咳

感染力の強い、細菌による呼吸器感染症。百日咳はあらゆる年齢の人に感染しうるが、1歳未満の乳児には非常に深刻な病気であり、命を脅かすこともある。

肺炎球菌感染症

肺炎球菌（Streptococcus pneumoniae）による感染症。肺炎や血流や脳脊髄液の侵襲性感染症など、より重篤な病気につながることもある。また耳や鼻に感染症を引き起こすこともある。肺炎球菌は肺炎の主要な原因であり、5歳未満の幼児の主要な死因となっている。肺炎球菌は一部の抗生物質に対する耐性を獲得している。

狂犬病

狂犬病ウイルスは中枢神経系に感染し、治療をしないと100%死に至る。ヒトへの感染経路は、感染した動物（主に犬）による擦過や咬傷の際の唾液。ヒトの曝露後予防には、狂犬病免疫グロブリンとワクチン接種などがある。

RSウイルス感染症（RSV）

RSウイルスは軽い風邪のような症状を引き起こす呼吸器系のウイルス。感染者の咳やくしゃみ、あるいはウイルスが付着した物に直接接触することで感染が広がる。通常感染から1～2週間で回復するが、乳幼児や高齢者は重篤化や命を脅かす可能性が高くなる。妊婦へのワクチン接種やモノクローナル抗体製剤が新生児や乳幼児のための重要な予防となる。

ロタウイルス感染症

ウイルス性の感染症で、感染者から特に子どもなどの感染しやすい相手に簡単に広がる。症状は重篤な水様性の下痢（多くの

場合嘔吐を伴う）や発熱、腹痛である。子どもの場合、重症化すると脱水から死亡する危険がある。ロタウイルスのワクチン接種で、幼児における下痢の主要な原因を予防できる。

風疹

急性のウイルス性呼吸器感染症で、感染経路は麻疹に似ているが、通常は麻疹ほど症状がひどくない。ただし、受胎直前や妊娠初期の女性が感染すると、流産や胎児死亡、先天性風疹症候群（CRS）として知られる先天性異常を引き起こすことがある。風疹ワクチンの接種で妊娠や子どもへの影響を防ぐことができる。風疹ワクチンの接種率が高い多くの国では一様に風疹が排除されている。

破傷風

土やほり、堆肥などの環境に自然に存在する芽胞に直接接触することによって広がる細菌性感染症。傷口または汚染された物質から体内に入る。予防接種を完全に終了していない場合、誰もが破傷風に感染しうるが、適切に滅菌されていない自宅での出産での新生児と母親の感染リスクが特に高い。破傷風は緊急処置が必要となり、多くの場合死に至る。新生児の破傷風は、ほとんどの場合死に至る。

結核（TB）

世界で最も人々の命を奪っている感染症で、毎分3人が死亡している。結核菌（Mycobacterium tuberculosis）によって引き起こされ、通常肺に感染するが、肺以外の臓器が冒されることもある。世界の人口のおよそ4分の1が結核に感染していると推計されている。さらに広い予防効果と感染予防を目指し、中高生および成人を対象とした新たな結核ワクチンの臨床試験が最終段階に入っている。

腸チフス

腸チフス菌（Salmonella typhi）による感染症で、汚染された食べ物や水によって広がり、死に至る可能性がある。流行はほとんどの場合、低所得国で発生する。薬剤耐性（AMR）をもつ菌が増加するにつれ、衛生状態が改善した施設ときれいな水、治療へのアクセスに加え、感染予防とワクチンの役割の重要性が高まっている。

黄熱病

感染した蚊が媒介するウイルス性の疾患。人口密度が高く、蚊が多く、住民の集団免疫が低い地域に、感染者がウイルスを持ち込んだ場合、大流行する可能性がある。一部の患者に黄疸がみられることから黄熱病と命名された。感染した患者のごく一部は重症化し、そのうち約半数が7～10日以内に死亡する。

付録3

国の需要を満たすための支出2026～2030年

2021～2025		現金資金基準 (100万米ドル)	2026～2030		
総額 100万米ドル	プログラム	既存のプログラム 100万米ドル	将来的需要 100万米ドル	総額 100万米ドル	総支出に対する割合 (%)
334	マラリア	1,237	(110)	1,127	9.5%
1,437	肺炎球菌	998	15	1,013	8.5%
888	不活化ポリオワクチン (IPV)	671	0	671	5.7%
442	麻疹と風疹	108	513	621	5.2%
343	麻疹と風疹	98	495	593	5.0%
100	麻疹	10	18	28	0.2%
239	コレラ	300	295	595	5.0%
402	備蓄と流行対応用ワクチン	366	88	454	3.8%
46	髄膜炎菌ワクチン備蓄	53	0	53	0.4%
244	コレラワクチン備蓄	243	0	243	2.0%
34	黄熱病ワクチン備蓄	48	0	48	0.4%
23	麻疹流行対応	23	0	23	0.2%
21	エボラワクチン備蓄	0	75	75	0.6%
35	その他の流行対応用ワクチン	0	13	13	0.1%
221	腸チフス ¹	60	343	403	3.4%
548	ロタウイルス	387	5	393	3.3%
188	髄膜炎菌性髄膜炎	60	330	390	3.3%
76	A型髄膜炎	28	100	128	1.1%
112	多価髄膜炎菌結合体ワクチン (MMCV)	32	230	262	2.2%
26	6種混合ワクチン	139	208	347	2.9%
516	5種混合ワクチン	343	0	343	2.9%
451	黄熱病	294	22	317	2.7%
559	ヒトパピローマウイルス (HPV) ¹	220	77	297	2.5%
2	ワクチン投資戦略2018に含まれるその他のワクチン	0	53	53	0.4%
2	狂犬病 (曝露後予防)	0	27	27	0.2%
0	RSウイルス	0	26	26	0.2%
0	ワクチン投資戦略2024に含まれるワクチン	0	32	32	0.3%
0	エムボックス	0	24	24	0.2%
0	デング熱	0	7	7	0.1%
0	E型肝炎	0	1	1	0.0%
2	日本脳炎	1	30	31	0.3%
2	B型肝炎出生時接種	7	11	18	0.2%
1	DTPブースター	5	1	6	0.1%

付録3(つづき)

2021~2025		現金資金基準(100万米ドル)		2026~2030	
総額 100万米ドル	プログラム	既存のプログラム 100万米ドル	将来的需要 100万米ドル	総額 100万米ドル	総支出に対する割合(%)
(449)	その他	(42)	(427)	(469)	-3.9%
22	その他のワクチン	0	26	26	0.2%
(471)	調整 ²	(42)	(453)	(495)	-4.2%
5,811	ワクチンプログラム合計	5,156	1,486	6,642	56.0%
1,537	保健システム強化	1,150	459	1,609	13.6%
627	キャンペーン運営コスト	185	678	863	7.3%
52	ワクチン導入補助	0	118	118	1.0%
161	その他すべての現金(ISS、INS、CSO、Switch Grantなど)	0	14	14	0.1%
2,376	現金による補助金支援	1,335	1,296	2,604	21.9%
251	MICs向け仲介支援³	0	250	250	2.1%
0	ELTRACO⁴	0	350	350	2.9%
132	その他⁵	108	55	163	1.4%
1,192	パートナーの参加枠組み(PEF)⁶	1,144	0	1,144	9.6%
746	運営費(OPEX)⁷	817	0	817	6.9%
0	調整(PEFおよびOPEX)	(100)	0	(100)	-0.8%
4,697	予防接種システムおよび運営費への投資	3,303	1,924	5,227	44.0%
10,508	理事会で承認された全プログラムと費用合計	8,459	3,410	11,869	100.0%

119億米ドル

備考:

1. 腸チフスとHPVへの支出金額(米ドル)は2024年6月に理事会に提出された予測財務表v21.1におけるインド戦略のもとにまとめられているものも含む。腸チフス向けには2026~2030年の既存プログラムに900万米ドル、HPV向けには2021~2025年に5300万米ドル、2026~2030年の既存プログラムに6500万米ドル。
2. 調整はターゲットワクチンの効率性、ベースが決められたプログラム、資金調整が含まれる。
3. MICs向け仲介支援はワクチンプログラムへのサポートに加え、技術支援と現金支援が含まれる。
4. 2026~2030年向けの将来的な需要はワクチンの協調融資によるリダクションと現金による補助金を合わせたELTRACO支出の3億5000万米ドルを含み、中間時点の推定額は2億5000万~4億5000万米ドルの範囲になる見通し。備考:すべての数値は近似値。
5. 2026~2030年の既存プログラムは1億800万米ドルのFMRA支出を表す。2026~2030年の将来的需要はその他の支出5500万米ドルを含む。備考:すべての数値は近似値。
6. 2026~2030年のPEFの支出は、PEFの技術支援9億米ドル、調達費1億8000万米ドル、イノベーション関連のパートナーシップ6400万米ドルを含む。備考:すべての数値は近似値。
7. 2026~2030年のOPEXは事務局OPEXの7億5000万米ドルおよびPEFのOPEX(研究と評価)の6700万米ドルを含む。備考:すべての数値は近似値。

付録4

2026～2030年における各国のGaviワクチン推定需要 (地域別、脆弱性別、IDA資格別)

1年ごとのプログラムに基づく (キャッシュフローベースではない)	2026～2030 100万米ドル	%
地域別		
アフリカ	4,836	80%
東地中海	733	12%
東南アジア	360	6%
西太平洋	52	1%
ヨーロッパ	47	1%
南北アメリカ	29	0%
総額	6,057	100%
脆弱性別		
脆弱である ¹	1,218	20%
脆弱ではない	4,838	80%
総額	6,057	100%
IDA資格別		
IDA有資格	5,830	96%
IDA無資格	227	4%
総額	6,057	100%
国によらない費用		
VIS (2018年および2024年)	85	
プログラム (特定国対象ではない)	515	
備蓄	454	
調整 ²	(469)	
総額	6,642	

備考:

- GaviのThe Fragile and Conflict Countries Segment区分による以下の12ヶ国からなる。アフガニスタン、中央アフリカ、チャド、ハイチ、マリ、ニジェール、パプアニューギニア、ソマリア、南スーダン、スーダン、シリアおよびイエメン。
- 調整はターゲットワクチンの効率性、ペースが決められたプログラム、資金調整が含まれる。

2026～2030年における国別Gaviワクチンの推定需要

1年ごとのプログラムに基づく (キャッシュフローベースではない)	2026～2030 100万米ドル	1年ごとのプログラムに基づく (キャッシュフローベースではない)	2026～2030 100万米ドル
アフリカ地域: 80%	4,836	南スーダン	88
アンゴラ	38	トーゴ	68
ベナン	104	ウガンダ	306
ブルキナファソ	217	タンザニア	218
ブルンジ	103	ザンビア	70
カメルーン	128	ジンバブエ	44
中央アフリカ	34	東地中海地域: 12%	733
チャド	123	アフガニスタン	112
コモロ	1	ジブチ	1
コンゴ共和国	9	パキスタン	237
コートジボワール	54	ソマリア	61
コンゴ民主共和国	735	スーダン	192
エリトリア	12	シリア	26
エチオピア	618	イエメン	104
ガンビア	8	東南アジア地域: 6%	360
ガーナ	48	バングラデシュ	74
ギニア	38	ブータン	0.2
ギニアビサウ	7	北朝鮮	31
ケニア	59	インド	73
レソト	3	インドネシア	60
リベリア	42	ミャンマー	87
マダガスカル	144	ネパール	34
マラウイ	148	スリランカ	1
マリ	165	東ティモール	1
モーリタニア	18	西太平洋地域: 1%	52
モザンビーク	209	カンボジア	28
ニジェール	290	キリバス	0.07
ナイジェリア	517	ラオス	2
ルワンダ	49	モンゴル	1
サントメ・プリンシペ	0.2	パプアニューギニア	3
セネガル	62	ソロモン諸島	0.4
シエラレオネ	61	ベトナム	16

1年ごとのプログラムに基づく (キャッシュフローベースではない)	2026~2030 100万米ドル	1年ごとのプログラムに基づく (キャッシュフローベースではない)	2026~2030 100万米ドル
ヨーロッパ地域: 1%		特定国を対象としない費用	
	47	VIS (2018年および2024年)	85
アゼルバイジャン	3	プログラム (特定国対象ではない)	515
キルギス	7	備蓄	454
モルドバ	0.7	調整 ¹	(469)
タジキスタン	25	総額	6,642
ウズベキスタン	10		
南北アメリカ地域: 0%			
ボリビア	4		
キューバ	0.4		
ガイアナ	0.1		
ハイチ	21		
ホンジュラス	2		
ニカラグア	2		
総額	6,057		

備考:

1. 調整はターゲットワクチンの効率性、ベースが決められたプログラム、資金調整が含まれる。

上記の国レベルの数字は備蓄や現金資金の額や他の時期的な調整を含まない。

Gaviの確定資金(2000~2030年)

2023年12月31日までに行われた2020~2030年向け拠出誓約を含む。³金額の単位はすべて100万米ドル資金提供／拠出誓約¹

ドナー 独立ドナーおよびビル& メリンダ・ゲイツ財団	2000~2025年					2021~2025年				2026~2030年		
	直接 ²	PCV AMC	IFFIm	COVAX AMC (IFFIm 経由を含む)	総額	直接 ²	IFFIm	COVAX AMC (IFFIm 経由を含む)	総額	直接 ²	IFFIm	総額
オーストラリア	646	-	160	119	925	218	55	119	393	-	112	112
オーストリア	-	-	-	9	9	-	-	9	9	-	-	-
バーレーン	-	-	-	3	3	-	-	3	3	-	-	-
ベルギー	3	-	-	16	20	3	-	16	20	-	-	-
ブータン	-	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-	-
ビル&メリンダ・ゲイツ財団	5,623	44	-	236	5,903	1,572	-	236	1,808	-	-	-
ブラジル	-	-	8	144	152	-	5	144	149	-	5	5
ブルキナファソ	1	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-
カメルーン	1	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-
カナダ	1,043	175	18	624	1,860	367	18	624	1,009	-	74	74
中国	25	-	-	100	125	20	-	100	120	-	-	-
コロンビア	-	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-	-
クロアチア	-	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-	-
デンマーク	76	-	-	29	104	18	-	29	47	4	-	4
エストニア	-	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-	-
欧州連合(EU)	667	-	-	1,009	1,676	334	-	1,009	1,343	-	-	-
フィンランド	5	-	-	19	24	2	-	19	21	-	-	-
フランス	528	-	1,385	340	2,253	273	540	340	1,153	-	156	156
ドイツ	1,592	-	-	1,589	3,181	716	-	1,589	2,305	-	-	-
ギリシャ	-	-	-	2	2	-	-	2	2	-	-	-
アイスランド	1	-	-	8	9	-	-	8	8	-	-	-
インド	27	-	-	-	27	15	-	-	15	-	-	-
アイルランド	82	-	-	15	97	20	-	15	35	-	-	-
イタリア	227	556	530	548	1,860	112	141	548	801	-	180	180
日本	288	-	-	1,500	1,788	140	-	1,500	1,640	-	-	-
サウジアラビア	25	-	-	191	216	3	-	191	194	-	-	-
クウェート	1	-	-	50	51	-	-	50	50	-	-	-
リヒテンシュタイン	-	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-	-
ルクセンブルク	22	-	-	6	28	6	-	6	11	-	-	-
マレーシア	-	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-	-
マルタ	-	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-	-
モリシャス	-	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-	-
メキシコ	-	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-	-
モナコ	2	-	-	0	2	1	-	0	1	-	-	-
オランダ	670	-	323	119	1,112	84	155	119	357	-	153	153
ニュージーランド	-	-	-	29	29	-	-	29	29	-	-	-
ニジェール	1	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-
ノルウェー	2,556	44	379	146	3,124	648	148	146	942	-	329	329

資金提供／拠出誓約¹

ドナー 独立ドナーおよびビル& メリンダ・ゲイツ財団	2000～2025年					2021～2025年				2026～2030年		
	直接 ²	PCV/AMC	IFFim	COVAX/AMC (IFFim 経由を含む)	総額	直接 ²	IFFim	COVAX/AMC (IFFim 経由を含む)	総額	直接 ²	IFFim	総額
オマーン	3	-	-	1	4	-	-	1	1	-	-	-
パラオ	-	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-	-
フィリピン	-	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-	-
ポーランド	-	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-	-
ポルトガル	0	-	-	1	1	0	-	1	1	-	-	-
カタール	20	-	-	10	30	10	-	10	20	-	-	-
韓国	59	-	-	280	339	30	-	280	310	-	-	-
モルドバ	-	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-	-
ロシア	10	70	-	-	80	10	-	-	10	-	-	-
スコットランド	1	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-
シンガポール	-	-	-	5	5	-	-	5	5	-	-	-
スロベニア	-	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-	-
南アフリカ	-	-	16	-	16	-	5	-	5	-	1	1
スペイン	55	-	220	6	281	12	68	6	86	-	52	52
スウェーデン	743	-	42	145	930	176	12	145	333	-	144	144
スイス	14	-	-	157	171	-	-	157	157	-	-	-
ツーク	-	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-	-
ウガンダ	1	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-
英国	4,381	424	2,076	520	7,401	1,381	753	520	2,653	-	1,035	1,035
米国 ³	3,950	-	-	4,000	7,950	1,170	-	4,000	5,170	-	-	-
ベトナム	-	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-	-
独立ドナーとビル&メリ ンダ・ゲイツ財団	23,349	1,313	5,158	11,981	41,800	7,346	1,901	11,981	21,228	4	2,241	2,244
民間部門 (PS) ドナー ⁴	338	-	-	264	602	87	-	264	352	-	-	-
ドナー総額	23,687	1,313	5,158	12,245	42,402	7,434	1,901	12,245	21,580	4	2,241	2,244

支援金の表(次ページ)は上記の表の通り誓約されたGaviが受け取る予定の金額を示す。

備考:

米ドル以外の通貨による拠出については、以下の通り記載します:

- 受け取った資金提供については、ヘッジされた金額にはヘッジレートを使用し、ヘッジされていない金額には受領日の為替レートを使用する。
- まだ受け取っていない資金提供については、ヘッジされた金額にはヘッジレートを使用し、ヘッジされていない金額には2023年12月31日付けのリフィニティブまたはブルームバーグの予測レートを使用する。

- 一部の資金提供は、誓約が成された年と違う年にGaviが受け取ることがある。
- 直接資金提供はマッチング・ファンドからの資金提供も含む。
- 2021～2025年の拠出誓約と資金提供には2024年3月に米国政府が承認した2024年向けの3億米ドルが含まれる。
- 現物出資は民間部門ドナーには含まれていない。

付録6(つづき)

Gaviの確定資金(2000~2030年)

2023年12月31日までに行われた2000~2030年向け拠出誓約を含む。³金額の単位はすべて100万米ドル

Gaviの資金

ドナー 独立ドナーおよびビル& メリンダ・ゲイツ財団	2000~2025年					2021~2025年				2026~2030年		
	直接 ²	PCV AMC	IFFIm	COVAX AMC (IFFIm経由を含む)	総額	直接 ²	IFFIm	COVAX AMC (IFFIm経由を含む)	総額	直接 ²	IFFIm	総額
オーストラリア	646	-	143	149	938	218	27	120	366	-	14	14
オーストリア	-	-	-	9	9	-	-	9	9	-	-	-
バーレーン	-	-	-	3	3	-	-	3	3	-	-	-
ベルギー	3	-	-	16	20	3	-	16	20	-	-	-
ブータン	-	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-	-
ビル&メリンダ・ゲイツ財団	5,623	44	-	236	5,903	1,572	-	236	1,808	-	-	-
ブラジル	-	-	16	144	160	-	6	144	150	-	5	5
ブルキナファソ	1	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-
カメルーン	1	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-
カナダ	1,043	175	44	624	1,886	362	44	624	1,030	-	16	16
中国	25	-	-	100	125	20	-	100	120	-	-	-
コロンビア	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
クロアチア	-	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-	-
デンマーク	76	-	-	29	104	15	-	29	43	4	-	4
エストニア	-	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-	-
欧州連合(EU)	667	-	-	1,009	1,676	391	-	1,009	1,401	-	-	-
フィンランド	5	-	-	19	24	2	-	19	21	-	-	-
フランス	528	-	1,283	340	2,151	255	202	340	797	-	41	41
ドイツ	1,592	-	-	1,589	3,181	716	-	1,468	2,184	-	-	-
ギリシャ	-	-	-	2	2	-	-	2	2	-	-	-
アイスランド	1	-	-	8	9	-	-	8	8	-	-	-
インド	27	-	-	-	27	17	-	-	17	-	-	-
アイルランド	82	-	-	15	97	20	-	15	35	-	-	-
イタリア	227	556	531	548	1,861	112	157	548	817	-	83	83
日本	288	-	-	1,500	1,788	100	-	1,440	1,540	-	-	-
サウジアラビア	25	-	-	191	216	3	-	191	194	-	-	-
クウェート	1	-	-	50	51	-	-	40	40	-	-	-
リヒテンシュタイン	-	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-	-
ルクセンブルク	22	-	-	6	28	6	-	6	11	-	-	-
マレーシア	-	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-	-
マルタ	-	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-	-
モリシャス	-	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-	-
メキシコ	-	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-	-
モナコ	2	-	-	0	2	1	-	0	1	-	-	-
オランダ	670	-	322	119	1,111	84	187	113	384	-	68	68
ニュージーランド	-	-	-	29	29	-	-	24	24	-	-	-
ニジェール	1	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-
ノルウェー	2,556	44	427	188	3,215	648	250	167	1,065	-	116	116

Gaviの資金

ドナー 独立ドナーおよびビル& メリンダ・ゲイツ財団	2000～2025年					2021～2025年				2026～2030年		
	直接 ²	PCV/AMC	IFFIm	COVAX/AMC (IFFIm 経由を含む)	総額	直接	IFFIm	COVAX/AMC (IFFIm 経由を含む)	総額	直接	IFFIm	総額
オマーン	3	-	-	1	4	-	-	1	1	-	-	-
パラオ	-	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-	-
フィリピン	-	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-	-
ポーランド	-	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-	-
ポルトガル	0	-	-	1	1	0	-	1	1	-	-	-
カタール	20	-	-	10	30	10	-	10	20	-	-	-
韓国	59	-	-	280	339	30	-	280	310	-	-	-
モルドバ	-	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-	-
ロシア	10	70	-	-	80	10	-	-	10	-	-	-
スコットランド	1	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-
シンガポール	-	-	-	5	5	-	-	5	5	-	-	-
スロベニア	-	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-	-
南アフリカ	-	-	12	-	12	-	1	-	1	-	-	-
スペイン	55	-	189	6	250	12	51	6	69	-	35	35
スウェーデン	743	-	39	241	1,023	176	17	229	422	-	7	7
スイス	14	-	-	157	171	0	-	135	135	-	-	-
ツーク	-	-	-	0	0	-	-	0	0	-	-	-
ウガンダ	1	-	-	-	1	1	-	-	1	0	-	0
英国	4,381	424	2,263	728	7,796	1,381	535	728	2,644	-	271	271
米国 ³	3,950	-	-	4,000	7,950	1,190	-	4,000	5,190	-	-	-
ベトナム	-	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-	-
独立ドナーとビル&メリ ンダ・ゲイツ財団	23,349	1,313	5,269	12,357	42,287	7,358	1,479	12,071	20,909	4	655	659
民間部門 (PS) ドナー ⁴	338	-	-	264	602	78	-	197	276	-	-	-
ドナー総額	23,686	1,313	5,269	12,622	42,889	7,437	1,479	12,268	21,184	4	655	659
IFFIm戦略的繰り延べ ⁵	-	-	-	-	-	-	714	-	714	-	-	-
誓約総額	23,686	1,313	5,269	-	42,889	7,437	2,193	12,268	21,898	4	655	659
投資収入 ⁷						494						369
現金および投資準備金からの移行 ⁷						221						131
確定資金						10,345						1,159

直接資金提供およびIFFImのみ

103億米ドル
(2021～2025年)

12億米ドル
(2026～2030年)

備考:

- 一部の資金提供は、誓約が成された年と違う年にGaviが受け取ることがある。
- 直接資金提供はマッチング・ファンドからの資金提供も含む。
- 2021～2025年の拠出誓約と資金提供には2024年3月に米国政府が承認した2024年向けの3億米ドルが含まれる。
- 現物出資は民間部門ドナーには含まれていない。
- IFFIm Core Proceedsは2024年3月31日までの拠出誓約に基づいて計算され、初期予測(変更の可能性あり)と、署名日の為替レートまたはそれぞれのIFFIm誓約のヘッジレートに基づいて分配される。
- 戦略的繰り延べは、当初は本戦略期間に支払う予定だったIFFImの収益が次の戦略期間に新たに分配されたことを指す。負の数値は次の戦略的期間に支払われる資金の増加を示し、正の数値はその年の支払いで前回繰り延べされた分配を指す。
- 投資収益と現金および投資準備金に記載された金額は、2024年6月に理事会に提出された予測財務表v21.1のとおり。
- 外国為替レートは2023年12月31日付け

IFFImとワクチン債



ワクチン債

予防接種のための国際金融ファシリティ (IFFIm) は、ドナー国からの長期にわたる出資誓約を基に、資本市場でワクチン債を売ることによってGaviが速やかに使える大規模な資金を調達します。2006年に設立されたIFFImは、ドナーから最長23年間の法的拘束力のあるコミットメントに基づく歴史上初の援助資金提供機関であり、低所得国が長期予算を策定し、予防接種プログラムの策定に関する判断に必要な予測可能性を提供しました。

既存支援の強化

IFFImはGaviの財政状況を一変させ、設立から最初の1年でGaviの予防接種プログラムへの資金をほぼ倍増しました。また、ドナー国であるオーストラリア、ブラジル、カナダ、フランス、イタリア、オランダ、ノルウェー、南アフリカ、スペイン、スウェーデン、そして英国から97億米ドル以上を調達しました。これらの長期の誓約は40以上のワクチン債とスクーク（イスラム債）の発行を支援しています。これらの債券は国際資本市場で8種の通貨で発行され、市場からの財務利益と社会的に責任ある投資機会を

求めている機関投資家・個人投資家の間で非常に人気があります。IFFImの財務マネージャーは世界銀行が務めています。

IFFImは、Gaviの中核となるプログラムとパンデミック対応に不可欠ではない資金調達手段として機能しており、これまでに開発された中でもきわめて汎用性の高い多国間資金調達メカニズムです。IFFImはGaviが実施する予防接種と保健システム強化のためのプログラムを加速させ、ワクチンの価格を削減し供給量を拡大する後押しをしています。長年にわたってIFFImはGaviの目的とさまざまな機能を実現し、世界的な公衆衛生の課題解決の一助となってきました。

IFFImの存在が世界的なパンデミック対応などの緊急時にGaviが迅速に初期費用を確保することや、緊急一斉投与キャンペーンや人道支援のための資金調達など、必要に応じて資金を使うことを可能にしています。ドナーにはGaviを支援する能力と希望するタイムラインに基づいて、予防接種プログラムへの即時のインパクトや予算構造の柔軟性などの効率的な手段を提供します。

Gaviの資金提供者



2023年12月31日までに拠出誓約された2000～2025年のGaviへの資金¹

429 億米ドル



独立ドナーおよびBMGF：423億米ドル

民間部門 (PS) ドナー：6億米ドル

ドナー総額：429億ドル

備考

1. 支援金には2024年3月に米国政府が承認した2024年分の出資金3億米ドルを含む。
2. 「その他の民間部門ドナー」には民間部門 (PS) のドナー (企業、財団、個人、機関および組織) のうち、匿名希望あるいは100万米ドル以下の資金提供者を含む。

その他の情報

Gavi 理事会

www.gavi.org/about/governance/gavi-board/

Gaviの資金動員について更なる情報

www.gavi.org/investing-gavi/funding/resource-mobilisation-process

重要な実績 — ドナーの拠出金と誓約

www.gavi.org/investing-gavi/funding/donor-profiles/annual-contributions-and-proceeds

Gaviドナーのプロフィール

www.gavi.org/funding/donor-profiles/

Gavi中間レビュー

www.gavi.org/sites/default/files/investing/funding/resource-mobilisation/MTR23_Report_FULL_eng.pdf

Gavi支援国情報

www.gavi.org/programmes-impact/country-hub

Gaviが支援する国の詳細な情報

www.gavi.org/country/

Gavi事務局最高幹部

www.gavi.org/about/governance/secretariat/

透明性と説明責任の方針

www.gavi.org/programmes-impact/programmatic-policies/transparency-and-accountability-policy

会計報告書

www.gavi.org/funding/financial-reports/

本パンフレットで使用されたインパクト推定の方法論についての詳しい情報は

Gavi投資機会2026～2030

www.gavi.org/news/document-library/Gavi-Investment-Opportunity-2026-2030-Technical-Appendix

Gavi投資機会2026～2030インパクト予測FAQs

www.gavi.org/news/document-library/Gavi-Investment-Opportunity-2026-2030-Impact-Estimates-FAQs

文末脚注

1. 以降「Gavi」または「アライアンス」と記述する。
2. 例外：ジカウイルスへのワクチンはありません。WHOがこれまでに7回宣言したPHEIC（国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態）は、新型インフルエンザ（2009～2010年）、ポリオ（2014年～継続中）、エボラ出血熱（2014～2016年および2018～2020年）、ジカ熱（2015～2016年）、Covid-19（2020～2023年）、Mpox（2022～2023年）の感染拡大に関するものです。
3. www.healthaffairs.org/doi/10.1377/hlthaff.2020.00103
4. ゼロドーズ児：定期接種のワクチンを受けていない子どもたち。運営上の観点から、Gaviはゼロドーズ児をジフテリア・破傷風・百日咳混合ワクチン（DTP1）の初回接種を受けていない子どもと定義。
5. <https://data.who.int/dashboards/covid19/deaths>
6. <https://healthpolicy.usc.edu/article/covid-19s-total-cost-to-the-economy-in-us-will-reach-14-trillion-by-end-of-2023-new-research/>
7. 国連子どもの死亡率推計に関する機関間グループ（UN IGME）
<https://childmortality.org/data> より引用
8. ヘモフィルス・インフルエンザ菌b型（Hib）、肺炎球菌、ロタウイルスおよび腸チフスのワクチン接種により、Gaviの支援対象国において抗生物質の使用を規定された1日の投与量（DDD）6700万人分減らすことができる。これは上記の感染症の治療に用いられる抗生物質を13%削減することに相当する。出典：Davis, N. 「Estimates of vaccine-preventable antimicrobial use in Gavi-eligible countries」（執筆中 ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院 2023年8月）
9. Gaviのデイズゼロ・パンデミック・ファイナンス・ファシリティおよびアフリカワクチン製造アクセラレーターは本投資機会の一部としての資金調達には必要ない。この2つのメカニズムがCOVAX AMCのパンデミック・ワクチン・プールを通じてCOVID-19時に残った資金を活用できることは2023年12月にGaviの理事会で承認されている。
10. Gaviが支援する54ヶ国向けに、インドを含めて7500万米ドル。
11. www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/malaria
12. 季節に影響される地域の子どものための3年予測は、季節性ワクチン接種トライアル（Chandramohan et al.）と季節性マラリア化学予防（SMC）の有効性予測および殺虫処理済みの蚊帳（ITNs）を合わせた結果に基づく。（Malaria Journal (2023) 22:242, <https://doi.org/10.1186/s12936-023-04657-5>）
13. <https://futureofghis.org/final-outputs/lusaka-agenda/>
14. 1) 保健システムを効率的に強化することで、プライマリ・ヘルスケアにいつそう貢献する。2) 持続可能で自国の資金で支える保健サービスと公衆衛生機能の構築に向け、仲介的な役割を担う。3) 健康における公平性を実現するための共同アプローチを強化する。4) 戦略的および運営上の一貫性を達成する。5) グローバルヘルスにおける製品、研究開発および市場と政策の失敗に対応するための地域生産へのアプローチを調整する。
15. COVID-19や人道危機の影響により、協調融資の支払い義務を例外的に見送られている国々は除く。現在の2021～2025年の戦略期間においては、すべての国が協調融資の支払い義務を完全に果たしている。
16. ブラジル、中国、インド、インドネシア、およびセネガルを含む。
17. G7広島首脳コミュニケ www.mofa.go.jp/policy/economy/summit/hiroshima23/documents/pdf/Leaders_Communique_01_en.pdf
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100511008.pdf>（日本語版）



Global Health Campus
Chemin du Pommier 40
1218 Le Grand-Saconnex
Geneva, Switzerland

Tel: +41 22 909 65 00
Fax: +41 22 909 65 50
info@gavi.org

Gaviのミッションについての
詳細はこちら www.gavi.org

-  facebook.com/gavi
-  [@gavi](https://twitter.com/gavi) / [@gavi_fr](https://twitter.com/gavi_fr) / [@vaccines](https://twitter.com/vaccines)
-  [@gavi](https://instagram.com/gavi)
-  linkedin.com/company/gavi
-  youtube.com/gavi